

科目名	SES100: 基礎ゼミナール			担当教員	平野 幸治、丹木 博一、森下 園、 宮崎 幸江、杉村 美佳、 岩崎 明子、河北 祐子
開講期	春	分類	必修		
単位	2	標準受講年次	1 年		
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要			学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。			4-③

担当教員の 連絡情報	担当教員	研究室	オフィスアワー	連絡先
	平野 幸治	4210	水 2 限・3 限、木 2～4 限	
	丹木 博一	4214	月 3 限、金 2 限	
	森下 園	4202	(春学期) 月 3 限、水 3 限、木 4 限 (秋学期) 火 4 限、水 2 限、木 5 限	
	宮崎 幸江	4217	(春学期) 木 4 限、火 3 限 (秋学期) 木 5 限、火 3 限	
	杉村 美佳	4220	(春学期) 水 5 限、金 2 限、金 5 限 (秋学期) 火 5 限、金 5 限	
	岩崎 明子	4213	(春学期) 水 5 限、木 5 限 (秋学期) 月 5 限、木 5 限	
	河北 祐子	4号館2階 講師控室	授業前後	

キーワード	導入教育、自立と自律、大学生としての学び、プレゼンテーションの方法、ノートの取り方、進路、小論文の書き方、研究倫理
授業の 概要	本学の教育理念である“Women for others, with others”を目指す学生生活への導入となる授業です。大学での学びに必要なアカデミックスキルを身につけ、将来のキャリア形成を視野に入れた大学生活のプランをたてていきます。
達成目標	大学での自律した学びに必要なアカデミックスキルが身につきます。具体的には、さまざまな分野の問題を論じるために必要となる専門的な情報や知識をどのように得て、プレゼンテーションや小論文としてどのように発信していくかを実践しながら学びます。また大学生が知っておくべき研究倫理についても学びます。
到達目標	学生同士のディスカッション、プレゼンテーションを中心に日本語での発信力を磨きます。また、Moodle 教材による専任教員のショートレクチャーや小論文を用いて、ノートテイキング技術や要約の仕方、小論文の書き方を実践的に身につけます。
評価方法	課題：6%×6 回＝36%、Moodle 教材のノートテイキング：4%×3 回＝12%、プレゼンテーション：22%（発表 15%、司会 7%）、小論文作成：30%。
評価基準	・課題：提出期限・内容と書式の遵守で 6 点、遅れた場合（翌日午後 5 時まで、以後は受け付けない）マイナス 3 点、内容または書式が守られていない場合はマイナス 2 点 ・ノートテイキング：3 つのレクチャーについてきちんとノートをとっている 4 点、そうでない 2 点 ・プレゼンテーション：内容が整理されていて、聞き手にむけて顔をあげてきちんと話している 15 点、内容・提示資料が整理されていない、顔をあげてきちんと話していない場合は各マイナス 5 点、司会：質問が適切で顔をあげてきちんと話す 7 点、質問が不適切、きちんと話していない場合は各マイナス 2 点、 ・小論文：論点が明確でパラグラフライティングができており、書式・提出期限を守れば 30 点、論点・パラグラフライティングが不完全、書式・提出期限を守っていない場合は各マイナス 10 点となる。 なお、欠席した回の課題は提出しても採点対象とはしない。
準備学修 の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス — 「他者のために、他者とともに生きる」ために、アカデミックスキルと研究倫理について	テキスト 1 章講読、自己紹介、グループディスカッション、DVD 視聴	本学の三つのポリシーとテキストの学長先生のメッセージを読む
2	自己を知り、自己を確立する — 自主と自律、履修計画、人間学を学ぶ意義 ポートフォリオで自主的な学修	テキスト 2 章講読、グループディスカッション	テキスト 3 章講読
3	世界に目を向け、異文化に心を開く — 多文化共生社会でのボランティア活動への招き	DVD 視聴、グループディスカッション	テキスト 4 章講読、課題①視聴 DVD 内容の要約
4	学ぶ姿勢を見直そう — 大学での学び、ノートの取り方のコツ、スケジュール管理、インターネット・SNS 利用上の留意点	DVD 視聴、ノートテイキング、グループディスカッション	テキスト 5 章講読、課題②視聴 DVD 内容の要約 400 字
5	最初の一步を踏みだそう — 質問の仕方、レポート作成時の注意事項、プレゼンの準備、研究倫理について	DVD 視聴、グループディスカッション、質疑応答	テキスト 6 章講読、課題③視聴 DVD 内容の要約 400 字、ショートレクチャー出席
6	文章のパラグラフ構造 — 要約と文章の中心文	DVD 視聴、グループディスカッション	視聴 DVD 内容の論点整理、Moodle 教材ノートテイキング①、プレゼンテーションの準備
7	ゼミ選択と進路選択 — 卒業までの計画、進路決定のために何をするか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト 7 章講読、課題④パラグラフライティング、Moodle 教材ノートテイキング②、プレゼンテーションの準備
8	編入への道—編入試験の概要、進学のために何をすべきか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト 8 章講読、Moodle 教材ノートテイキング③、プレゼンテーションの準備
9	就職への道—働くとはどういうことか、企業は学生に何を求めているのか + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト 9 章講読、プレゼンテーションの準備、ゼミ説明会出席
10	女性のキャリアとライフコース—働く女性の状況、あなたのライフプラン + プレゼンテーション	DVD 視聴、グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト 10 章講読、課題⑤視聴 DVD の内容要約、プレゼンテーションの準備
11	キャリア・パスを考える — なぜ進学/就職するのか、理由を説明する + プレゼンテーション	グループディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答	テキスト 11 章講読、進路について考えてくる、プレゼンテーションの準備
12	将来の夢を実現するためのリサーチ — 進路別のグループでリサーチプランを作成	グループディスカッション、情報収集の仕方	テキスト 12 章講読、小論文のためのリサーチ
13	論点をまとめる — リサーチしたことをグループでシェア、小論文の骨組みをつくる	グループディスカッション、アウトライン作成	テキスト 13 章講読、小論文のためのリサーチ、学修ポートフォリオの用紙をダウンロードしてくる
14	小論文を書く — 先行研究や得た情報を踏まえてメイン・パラグラフを作成、学修ポートフォリオの書き方	小論文の相互チェック、講評	課題⑥小論文のアウトライン作成
15	引用の仕方、情報リテラシー、小論文の仕上げ、リフレクション・タイム(学修ポートフォリオ作成)	引用・註についての説明、グループワーク	テキスト 15 章講読 小論文作成

テキスト	上智大学短期大学部編『Essentials — A Guide to Finding the Right Career Path for You』
参考書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)
その他 特記事項	授業時間外に全専任教員による 90 分のゼミ紹介とノートテイキング説明が 1 回ある。必ず出席すること。日時・場所については初回授業でお知らせします。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	永野 良博
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4218	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	現代アメリカ文学、Ernest Hemingway、冰山理論、個人の確立、家族、共同体						
授業の概要	アメリカの作家 Ernest Hemingway による文学作品とそれらに関する研究書・論文を読み、小説の研究に必要な基礎的な知識を身に付けてゆく。多くを語らない抑制された文章を読み、創造的に主題を読み取る。扱われる主題は、個人の確立、家族、友人、恋人、生と死、戦争、伝統とそこからの脱却、社会的マイノリティーとの関係、文明と自然、ジェンダー、身体論等。授業では学生同士そして教員との意見交換が中心となる。						
達成目標	文学作品の登場人物の心理と人間関係を理解することが出来る。そしてそれらをより広い社会や歴史上の問題と関連させて考え、口頭及び文章において論じることが出来るようになる。様々な研究主題とそれらが持つ重要性を理解し、そこから独自の文学論を形成し、最終的には人間性と社会に関して、学生個人として新たな発見をすることが出来る。						
到達目標	文学作品と研究資料からメモを取ることから始めて、文学的主題の発見と研究方法の基礎を身に付けることが出来る。同時に日々の気付きと研究成果について、授業で他の学生と討論を重ね、発展させることが出来る。作品と先行研究を十分に理解し、それらに関する自分の意見を発展させて研究ノートにまとめ、独自の主題を設定し、論文を作成出来る。さらに最終的な研究の成果を効果的に口頭発表出来る。						
評価方法	授業参加（40%）、研究ノート（30%）、論文（20%）、論文発表（10%）						
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、理解し、それを基に洞察力和説得力のある自らの意見を発表出来ること。研究ノートでは作品と先行研究に関する十分な理解を示し、それに対する自分独自の意見の記述をする。論文では以上の成果を基に明確で論理的な文学論を書く。論文の発表では、口頭での明確な意見の発表と共に、十分な質疑応答が出来るよう、発表内容に関する補足説明事項や発展的な考えを準備する。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Ernest Hemingway 初期短編導入 冰山理論と作品読解に向けて	講義、質疑応答	“The Doctor and the Doctor’s Wife” を読む
2	作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 父と母、科学と宗教、倫理的行為	意見交換	“The Doctor...,” 研究書・論文を読む
3	作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 悪の拒絶、異人種との共存	意見交換	“The Doctor...,” 研究書・論文を読む
4	“Soldier’s Home” 失われた世代、破壊と日常、破壊と文明	意見交換	“Soldier’s Home,” 研究書・論文を読む
5	“Soldier’s Home” 虚偽の人生、愛の喪失、伝統的共同体	意見交換	“Soldier’s Home,” 研究書・論文を読む
6	“Cat in the Rain” 他者の欲望と自己の欲望、夫婦の危機	意見交換	“Cat in the Rain,” 研究書・論文を読む
7	“Cat in the Rain” 髪を伸ばすこと、猫が表すもの、父権制	意見交換	“Cat in the Rain,” 研究書・論文を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	“Indian Camp” 生と死、通過儀礼、マイノリティー女性の身体	意見交換	“Indian Camp,” 研究書・論文を読む
9	“Indian Camp” 自然・文明・テクノロジー、論文作成法、大学生の研究倫理	意見交換	“Indian Camp,” 研究書・論文を読む
10	“End of Something” 未成熟な恋愛、時間について	意見交換	“End of Something,” 研究書・論文を読む
11	“End of Something” ハードボイルド的文体、男性間の連帯と女性	意見交換	“End of Something,” 研究書・論文を読む
12	“Fathers and Sons” 空虚な自己と個人主義、父と子	意見交換	“Fathers and Sons,” 研究書・論文を読む
13	研究発表	口頭発表と質疑応答	発表原稿作成
14	研究発表	口頭発表と質疑応答	発表原稿作成
15	研究発表 リフレクションタイム	口頭発表と質疑応答 意見交換	発表原稿・学修ポートフォリオ作成
テキスト	Ernest Hemingway. <i>The Complete Short Stories of Ernest Hemingway</i> (Scribners). アーネスト・ヘミングウェイ『われらの時代・男だけの世界』（新潮文庫） Hemingway に関する研究書・論文		

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	永野 良博
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4218	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	現代アメリカ小説、自由意志と主体的な生をめぐる考察、英文読解、小説へのアプローチ						
授業の概要	20 世紀後半アメリカのポストモダニズムを代表する Kurt Vonnegut と John Barth による作品と、それらに関連する資料を読み、小説の研究に必要な知識を身に付ける。中心的主題は自由意志及び主体的な生をめぐる考察である。それらを中核に、戦争、生と死、時間、歴史、個人の責任、愛、倫理等の問題を論じる。作品理解を深め、独自の主題発見をし、精読により英文読解力の向上を目指す。学生同士の議論と学生による研究発表が中心となる。						
達成目標	文学作品の登場人物の心理と彼等の社会・歴史との複雑な関係を読み取ることが出来る。また様々な文学的主題への理解を深め、それらを文学研究者達がどのように論じ、人間性や社会に関する発見へと繋げてきたのか理解出来る。文学作品の読み取り方、文学に関する研究論文の書き方を習得する。同時に発表力、質問力、そして意見交換を通した建設的な議論実行力を身に付けることが出来る。文学作品の英文を読み解くことが出来る。						
到達目標	登場人物の考えや行動について理解を深め、彼等を取り巻く世界について、出来るだけ多くの主題を読み取り、独自の主題発見が出来る。他の学生との意見交換を通して、自らの議論の問題点・可能性について知り、議論を発展させることが出来る。独自の主題に基づく文学論作成を行い効果的に口頭発表出来る。英語の文学作品の読解を通して比喩的かつ重層的な文章の読解力を伸ばすことが出来る。						
評価方法	授業参加（文学作品に関する議論及び英文読解）（40%）、論文（40%）、研究発表（20%）						
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を授業で提示出来ること。また他人の意見に対して建設的な意見を与えられること。論文作成では、文学的主題の発見力、独自の意見の構築力、論理的議論発展力が求められる。発表は主題を適切にまとめたレジュメを基に行い、質問に対して、周到な調査と熟考に基づいた答えを与えることが必要。英文読解では文学作品の英文の正確な理解が必要である。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	【Kurt Vonnegut, <i>Slaughterhouse-Five</i> 】時間の中の彷徨、時間と死の概念	資料講読、意見交換	小説第 1 章 ハンドアウト pp.1-3
2	第二次世界大戦、少年期再訪、復讐、死の予告	資料講読、意見交換	小説第 2 章 - 3 章 ハンドアウト pp.4-6
3	決定論と自由意志、個人の歴史への関わり、宇宙の終末、予定説	資料講読、意見交換	小説第 4 章 - 5 章 ハンドアウト pp.7-9
4	カルヴィニズム、ナチスへの徹底抗戦、不条理な死、ドレスデン爆撃の記憶	資料講読、意見交換	小説第 6 章 - 7 章 ハンドアウト pp.10-12
5	飛行機墜落事故と不条理な死、妻への愛、空想科学小説、自己と世界の再創造	資料講読、意見交換	小説第 8 章 - 9 章 ハンドアウト pp.13-16
6	主題分析まとめ、論文作成法、大学生の研究倫理	資料講読、講義、意見交換	小説第 10 章 ハンドアウト p.17
7	【John Barth, <i>The End of the Road</i> 】自己喪失、選択不可能状態	資料講読、意見交換	小説第 1 章 - 3 章 ハンドアウト pp.18-20

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	実存主義、相対主義的世界に関する議論、内在的価値の否定	資料講読、意見交換	小説第4章 - 5章 ハンドアウト pp.21-23
9	個人が独自の価値観と視点を持ち一貫性を保持すること、愚かさに関する議論	資料講読、意見交換	小説第6章 - 7章 ハンドアウト pp.24-26
10	古き自己の放棄、個人の独自性、真正なる個人、姦通と動機の不在	資料講読、意見交換	小説第8章 - 9章 ハンドアウト pp.27-29
11	神話療法、原因の探求、行動の結果への責任、個人と主体、主題分析まとめ	資料講読、意見交換	小説第10章 - 12章 ハンドアウト pp.30-34
12	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
13	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
14	研究発表	発表、質疑応答	研究発表準備
15	研究発表、リフレクション・タイム	発表、質疑応答、意見交換	研究発表・学修ポートフォリオ準備
テキスト	Kurt Vonnegut. <i>Slaughterhouse 5</i> (Dell). カート・ヴォネガット『スローターハウス5』（ハヤカワ書房） John Barth. <i>The End of the Road</i> (Anchor). ジョン・バーズ『旅路の果て』（白水社） ハンドアウト		

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	永野 良博
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4218	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	アメリカ小説の自律的研究、独自の主題の発見とそれへのアプローチ						
授業の概要	アメリカ小説を第一次資料とし、小説に学生自らが興味を持つ主題に関連させながら研究を進め、その成果を報告し、討論を行い、研究論文を作成する。学期前半には学生が研究対象として選択した小説の意義とその後追求する研究課題を口頭発表により明らかにする。それを基に、多様な第二次資料の読解と理解を基に研究を発展させ、その成果を発表し、論文にまとめる。学生同士の議論そして学生による研究発表が中心となる。						
達成目標	文学作品の登場人物の心理と彼等の社会・歴史との複雑な関係を読み取ることが出来る。また様々な文学的主題に慣れ親しみ、それらを文学研究者達がどのように論じ、人間性や社会に関する発見へと繋げてきたのか理解出来る。春学期に修得した知識を活かし、より幅広く研究・調査を行い、自らの研究主題を発展出来る。そして学期末に充実した研究論文を提出する。文学作品の英文を読み解くことが出来る。						
到達目標	登場人物の考えや行動について理解を深め、彼等を取り巻く世界について、多くの主題を読み取り、独自の課題発見を基に主題設定することが出来る。他の学生との意見交換を通して、自らの議論の問題点・可能性について知り、議論を発展させることが出来る。独自の文学論を作成し、それを効果的に口頭発表し、充実した研究論文を提出する。英語の文学作品の読解を通して比喩的かつ重層的な文章の読解力を伸ばすことが出来る。						
評価方法	授業参加（文学作品に関する議論）（20%）、論文（50%）、研究発表（30%）						
評価基準	授業参加に関しては事前に資料を読み、それを基に洞察力と説得力のある自らの意見を授業で提示出来ること。また他人の意見に対して建設的な意見を与えられること。論文作成では、文学的主題の発見力、独自の意見の構築力、論理的議論発展力、そして人間性や社会についての新たな発見が求められる。発表は主題を適切にまとめたレジュメを基に行い、質問に対して、周到な調査と熟考に基づいた答えを与えることが必要である。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	論文作成の方法、大学生の研究倫理	講義・質疑応答	ハンドアウトを読む
2	研究対象となる作品・研究課題の発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
3	研究対象となる作品・研究課題の発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
4	研究対象となる作品・研究課題の発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
5	研究対象となる作品・研究課題の発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
6	研究対象となる作品・研究課題の発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
7	研究対象となる作品・研究課題の発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	研究対象となる作品・研究課題の発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
9	ゼミナール論文概要発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
10	ゼミナール論文概要発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
11	ゼミナール論文概要発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
12	ゼミナール論文概要発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
13	ゼミナール論文概要発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
14	ゼミナール論文概要発表	発表・質疑応答	研究発表準備に関わる資料読解・資料作成
15	ゼミナール論文概要発表、リフレクション・タイム	発表・質疑応答、意見交換	研究発表準備、資料読解、資料作成、学修ポートフォリオ作成
テキスト		学生が各自第一次資料及び第二次資料を選ぶ。また学生が研究発表用の資料を授業で配布する。その他、担当教員が論文作成や発表に関わる資料を必要に応じて配布する。	

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	平野 幸治
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4210	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	曖昧さ (ambiguity)、成熟 (maturity)、不寛容 (intolerance)、和解 (reconciliation)						
授業の概要	プレゼミでは 20 世紀の前半のイギリス作家 E.M. フォスターの作品を取り上げ、文学研究の専門用語と概念が理解できるように授業を展開する。テキストや DVD を使用して分析のポイントを考察し、特にプロット展開と上記のキーワードがどう結びつくのかを理解する。小グループに分かれて、作家研究や作品研究の方法や読者としての主体性の在り方を討論し、学期末にはグループ・ワークによる成果を協力して発表する。						
達成目標	学生は、E.M. フォスターの小説『ハワーズ・エンド』と『眺めの良い部屋』、批評『小説の諸相』から、文学研究の専門用語と概念が理解できることを主眼に、特に彼の作品の持つ個性と汎用性に着目し、小グループに分かれて互いに意見を出し合い、彼の作品の今日的意義について討議する。また William Shakespeare の劇を用いて、専門研究の知識と手順の手がかりを身につけ、学期末にはグループ・ワークの発表を行う。						
到達目標	①学期末に学生は、作品の要約や意見が的確な英語で書けるようになる。②グループで意見を出し合い、自分の意見を相対化することができるようになる。③グループ・ワークによって研究の知識と手順の手がかりを身につけ、グループで発表できるようになる。④研究者としての倫理を踏まえ引用を用いた 3,000 字程度の日本語のレポートが書けるようになる。その結果、発問の仕方、作品研究の方法と英文学の知識を獲得できる。						
評価方法	①毎回の授業で回収する shuttle card の英語で述べる観点 (2%×15 回=30%)。②グループ・ディスカッション終了時にグループ内の書記がフォームに記入しその成果を発表する観点 (5%×4 回=20%)。③グループ・ワークの成果をプレゼンテーション (10 分程度の発表) する観点 (10%×2 回=20%)。④各自の発表を研究者としての倫理に基づいたレポート (3,000 字程度の日本語の文章) として学期末に提出する観点 (30%:レポート 20%+アブストラクト提出 10%)。						
評価基準	評価基準の詳細は授業の初回時に説明します。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション: E.M. フォスターの文学的意義と research について	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
2	E.M. フォスターの作品研究『ハワーズ・エンド』: 描写の「曖昧さ」の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
3	E.M. フォスターの作品研究『ハワーズ・エンド』: 描写の「曖昧さ」の多様性	②-1 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
4	作品研究『ハワーズ・エンド』: 登場人物内面の変化、特に不寛容について	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
5	作品研究『ハワーズ・エンド』: 登場人物内面の展開、特に和解について	②-2 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
6	作品研究『ハワーズ・エンド』: 比喩の持つ意義	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	作品研究『ハワーズ・エンド』のグループ発表	③-1 グループ・ワークの発表と講評	発表原稿の整理とレジュメの作成
8	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』：語り手の「曖昧さ」の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDを視聴しておく
9	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』：語り手の「曖昧さ」の意義	②-3 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
10	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』：語り手の「曖昧さ」の効果	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べおよびDVDを視聴しておく
11	作品研究『眺めの良い部屋』：登場人物内面の変化と展開	②-4 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
12	作品研究『眺めの良い部屋』：登場人物内面の変化、特に成熟について	ディスカッションの結果を踏まえた講義	ノートの整理とレジュメの下調べと資料整理
13	E.M. フォスターの作品研究『眺めの良い部屋』のグループ発表	③-2 グループ・ワークの発表と講評	発表原稿の整理とレジュメの作成
14	William Shakespeare の作品研究と研究者としての倫理構築と plagiarism	講義とグループ・ワーク	ノートの整理とレジュメの下調べと資料整理
15	リフレクション・タイム（学修ポートフォリオ作成）とレポート返却	グループ・ディスカッションと講評	ノートの整理と学修ポートフォリオの準備

テキスト	Stanley Wells. <i>William Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (OUP). 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』（岩波新書）
参考書	河合祥一郎『シェイクスピア：人生劇場の達人』（中公新書） <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	平野 幸治
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4210	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	曖昧さ (ambiguity)、比喩 (metaphor)、共感 (empathy)、和解 (reconciliation)						
授業の概要	文学研究の専門用語が理解できるように、現代のイギリス作家 Kazuo Ishiguro の作品研究の成果を活かし、彼の作品の持つ個性性と汎用性を考慮して授業を展開する。テキストを使用して分析のポイントを考察し、特にプロット展開と上記のキーワードがどう結びつくのかを理解する。小グループに分かれて文学研究や作品研究の方法や読者としての主体性の在り方を討論し、学期末にグループ・ワークの成果を協力して発表する。						
達成目標	学生は、Kazuo Ishiguro の文学作品『日の名残り』、『私を離さないで』、『忘れられた巨人』から、文学研究の専門用語と概念が理解できるようになる。特に彼の作品の持つ個性性と汎用性に着目し、小グループに分かれて互いに意見を出し合い、彼の作品の今日的意義について討議する。また William Shakespeare の劇を用いて、専門研究の知識と手順の手がかりを身につけ、学期末にはグループでの研究成果を発表する。						
到達目標	学期末には学生は、プロット・サマリーや DVD の視聴に基づき作品についてグループ・ディスカッションや 10 分程度の発表ができるようになる。他者の意見を聞くことによって自己の考えを相対化し、意見を修正し、その成果に基づいて十分な具体例や作品からの引用を用いて論理的に 3,000 字程度の日本語の文章が書けるようになる。						
評価方法	①グループ・ディスカッション終了時に専用フォームにグループ内の書記が記入しその成果を発表する (5%×5 回=25%)。②グループ・ワークの成果をプレゼンテーションする (25%)。③グループ・ワークのプレゼンテーションをした後で、各自の発表のレポートを学期末に提出する (20%)。④毎回の授業の終了時に回収する shuttle card に授業に関する質問や意見をきちんとした日本語で述べる (2%×15 回=30%)。						
評価基準	評価基準の詳細は授業の初回時に説明します。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	イントロダクション: 授業の進め方と Kazuo Ishiguro の文学的意義について	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
2	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 語り手の「曖昧さ」の意義と効果	①A グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
3	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 登場人物内面の変化と展開	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
4	Kazuo Ishiguro の作品研究『日の名残り』: 内面の変化、特に共感について	①B グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
5	Kazuo Ishiguro の作品『日の名残り』の②グループ発表	ディスカッションを踏まえた講義	発表原稿の整理
6	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』: 語り手の「曖昧さ」の意義と効果	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD を視聴しておく
7	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』: 登場人物内面の変化と展開	①C グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Kazuo Ishiguro の作品研究『私を離さないで』：内面の変化、特に和解について	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べおよびDVDを視聴しておく
9	Kazuo Ishiguro の『私を離さないで』の②グループ発表	発表と質疑応答	発表原稿の整理
10	Kazuo Ishiguro の作品研究『忘れられた巨人』：語り手の「曖昧さ」の意義と効果	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べ
11	Kazuo Ishiguro の作品研究『忘れられた巨人』：登場人物内面の変化と展開	①D グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
12	Kazuo Ishiguro の作品研究『忘れられた巨人』：内面の変化、特に記憶について	①E グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための資料整理
13	Kazuo Ishiguro の『忘れられた巨人』の②グループ発表	発表と質疑応答と講評	発表原稿の整理
14	William Shakespeare の作品の発表の準備と研究倫理や plagiarism について	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDを視聴しておく
15	Kazuo Ishiguro の世界とリフレクション・タイム（学修ポートフォリオ作成）	講義とディスカッション	③の発表のレポートの提出と学修ポートフォリオの準備
テキスト	Stanley Wells. <i>William Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (OUP). プリント配布		
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』（白水社） S. Barnet & W. Cain. <i>A Short Guide to Writing about Literature</i> (Pearson).		

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	平野 幸治
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4210	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	Ambiguity (曖昧さ), metaphor (比喩), intolerance (不寛容さ), reconciliation (和解)						
授業の概要	前半は、William Shakespeare の劇を取り上げて、文学研究の専門用語と概念が理解できるよう授業を展開する。悲劇および喜劇をそれぞれ一つ取り上げて講義し、グループでそれぞれの劇のテーマと演出の効果についてディスカッションをする。後半は、 <i>The Hours</i> を取り上げて、映像と文学の観点から考察する。学期末にはゼミ論文を完成し、口頭発表をする。発問の仕方、回答の仕方と文学の知識を日常的に検証する。						
達成目標	学期前半はゼミナール I で獲得した文学研究の方法論を William Shakespeare の劇の考察に応用し、劇のテーマと演出の効果についてグループで討議し発表してもらう。普遍性と固有性の観点から Shakespeare を理解する。後半は、映像と文学という観点から <i>The Hours</i> を扱い、Virginia Woolf という作家の問題意識と先進性に焦点を当てる。学生の知的興味を刺激して、期末にはゼミ論文を完成し、口頭発表ができるよう指導する。						
到達目標	学期末に学生は、ゼミ論文を完成し、発表ができるようになる。Shakespeare の特徴を理解し、Virginia Woolf の問題意識と先進性を把握し、①ディスカッションによって問題意識と発問のスキルを獲得できるようになる。②グループで発表できるようになる。③研究者としての倫理を踏まえ、英語の abstract を付した 5,000 字の論文が書けるようになる。④発問の仕方、知識を検証する習慣が身につくようになる。						
評価方法	①ディスカッション終了時にグループ内の書記が記入し成果を発表する (5%×4 回=20%)。②グループ・ワークの成果をプレゼンテーションする (25%:発表 15%+レジュメ提出 10%)。③研究者としての倫理を踏まえたゼミ論文 (5,000 字程度の日本語) を学期末に提出 (25% : アウトライン報告 5%+ゼミ論文の中間発表 5%+提出 15%)。④授業の終了時に回収する shuttle card に質問や意見を英語で述べる (2%×15 回=30%)。						
評価基準	評価基準は授業の初回に詳しく説明します。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	William Shakespeare の悲劇 <i>Othello</i> と喜劇 <i>Pericles, Prince of Tyre</i> 研究の意義	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよび DVD の視聴
2	悲劇 <i>Othello</i> の作品研究の方向性について	①-1 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
3	喜劇 <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究の方向性について	①-2 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
4	<i>Othello</i> と <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究 (1) と③ゼミ論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
5	<i>Othello</i> と <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究 (2) と③ゼミ論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
6	<i>Othello</i> と <i>Pericles, Prince of Tyre</i> の作品研究 (3) と③ゼミ論文のアウトライン報告	講義および発表と質疑応答	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ
7	③ゼミ論文のアウトライン報告と研究者としての倫理構築と plagiarism	発表と質疑応答および講義	アウトライン作成と発表の整理とプリントの下調べ

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究の相関性について	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDの視聴
9	③ゼミ論文の中間発表（全員）	発表と質疑応答および講評	発表用の原稿作成と資料整理
10	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究(1)：内面、特に不寛容について	講義とプロット・サマリーの説明	プリントの下調べおよびDVDの視聴
11	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究(2)：内面、特に和解について	①-3 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
12	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究(3)：登場人物の成熟について	ディスカッションを踏まえた講義	プリントの下調べおよびDVDの視聴
13	映画 <i>The Hours</i> と作家 Virginia Woolf の研究(4)：意識の流れと映像について	①-4 グループ・ディスカッションと発表	ディスカッションのための要点整理
14	②グループ・ワークの成果の発表	発表と質疑応答および講評	②グループ・ワークの発表の準備およびレジュメ作成
15	グループ・ワークの講評とリフレクション・タイム（学修ポートフォリオ作成）	発表の講評、講義と③ゼミ論文の回収	③ゼミ論文の提出準備と学修ポートフォリオの準備

テキスト	Stanley Wells. <i>Shakespeare: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』（岩波新書）
参考書	D. ロッジ、柴田元幸・斉藤兆史訳『小説の技巧』（白水社） S. Barnet & W. Cain. <i>A Short Guide to Writing about Literature</i> (Pearson).

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	近藤 佐智子
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4208	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、英語教育						
授業の概要	私たちは、住んでいる地域、文化、年齢、ジェンダー、職業といった様々な社会的要因によって、異なる話し方をする。また、場面や相手によって巧みに話し方を変えるということも日常的に行っている。このゼミでは、主に英語と日本語について、このような社会と言語のダイナミックな関係について基礎知識を得る。社会言語学の基礎文献を読み、その内容をまとめ、発表し、ディスカッションをする力をつける。						
達成目標	社会言語学に関する基礎的知識を得ることを目標とする。社会言語学の理論やこれまでの研究内容を理解し、私たちの日々のことばの使用とどのような関係があるのかを考察する力をつける。また、得た知識を発表することによって効果的に他者に伝えることができるようになる。						
到達目標	日本語の文献を読むことによって、分析的な思考能力、読んだものをまとめる力、レジメを作成する力、相手に効果的に伝わる発表をする力、疑問点を追求し議論をする力をつけることを目標とする。最終的には英語で書かれた社会言語学の専門的文献を理解し、日本語で要約できることを目標とする。また、課題のレポート作成によって、文献研究の行い方を学ぶ。						
評価方法	授業時の積極参加（20%）、発表（30%）、レポート（30%）、要約の提出（20%）						
評価基準	授業時の積極参加（20%） 授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量 発表（30%） レジメの構成、レジメの内容が的確に要点を捉えているかどうか、発表の内容（理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか）、発表の態度（声の大きさ、話し方など） レポート（30%） 複数の文献を読み、引用などの規則を適切に守り、論理的にレポートが構成されているかどうか、レポートの内容が的確に要点を捉えているかどうか、自分の考えが明確に述べられているかどうか。 課題提出（20%） 日本語教科書各章の要約の提出（内容のポイントを捉えているかどうか、全回提出したかどうか） 英語文献の要約の提出（英語が理解できているか、内容のポイントを捉えているかどうか）						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	導入（社会言語学とは、授業の運営方法、発表とレジメの作成方法、要約の仕方）	講義	教科書 1-15 頁読む
2	地域による言語の違い	学生の発表 ディスカッション	教科書 19-36 頁読み要約 発表者はレジメ作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
3	言語と社会階級	学生の発表 ディスカッション	教科書 37-51 頁読み要約 発表者はレジメ作成
4	人種、民族による言語差	学生の発表 ディスカッション	教科書 52-65 頁読み要約 発表者はレジメ作成
5	言語の性差	学生の発表 ディスカッション	教科書 66-82 頁読み要約 発表者はレジメ作成
6	言語の年齢差	学生の発表 ディスカッション	教科書 83-95 頁読み要約 発表者はレジメ作成
7	言語の状況差と適切さ	学生の発表 ディスカッション	教科書 96-112 頁読み要約 発表者はレジメ作成
8	呼びかけ表現・ことばによる丁寧表現	学生の発表 ディスカッション	教科書 113-140 頁読み要約 発表者はレジメ作成
9	ことばのイメージ・会話スタイル	学生の発表 ディスカッション	教科書 141-175 頁読み要約 発表者はレジメ作成
10	含意と文化・非言語伝達	学生の発表 ディスカッション	教科書 176-204 頁読み要約 発表者はレジメ作成
11	社会言語学と英語教育	学生の発表 ディスカッション	教科書 205-212 頁読み要約 発表者はレジメ作成
12	英語文献の読み方、レポートの書き方（文献研究の方法）研究倫理教育	講義	英語テキスト 1-16 頁概読 レポート作成
13	What do sociolinguists study?: Why do we say the same thing in different ways?	英語文献精読演習 ディスカッション	英語テキスト 1-3 頁精読し要約、レポート作成
14	What do sociolinguists study?: What are the different ways we say things?	英語文献精読演習 ディスカッション	英語テキスト 4-7 頁精読し要約、レポート作成
15	Social factors, dimensions and explanations リフレクション（学修ポートフォリオ）	英語文献精読演習 ディスカッション	英語テキスト 8-16 頁精読し要約、レポート提出

テキスト	田中春美、田中幸子（編著）『社会言語学への招待』（ミネルヴァ書房） J. Holmes. <i>An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition</i> (Routledge).
参考書	南雅彦『言語と文化－言語学から読み解くことばのバリエーション』（くろしお出版） 真田信治（編）『社会言語学の展望』（くろしお出版）
その他 特記事項	最後の3回の授業は英語での予習・復習が必要 言語学概論を履修済か履修中が好ましい

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	近藤 佐智子
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4208	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、ポライトネス						
授業の概要	主に英語と日本語を対象に、社会と言語のダイナミックな関係を社会言語学および語用論の観点から研究する。これまでに構築されてきた理論、研究方法、研究結果について英語で書かれた文献を読み概観し、具体的な事象に照らし合わせて先行研究の妥当性についてディスカッションを行う。学期の最後には各自選択したテーマについて文献研究を行い論文にまとめる。						
達成目標	社会の中で言語がどのように使用されているのかを分析できるようになるために、社会言語学および語用論の理論および先行研究の内容を理解し、それらの研究結果が妥当であるかどうかを判断できるようになる。幅広い文献を使って研究ができるようになるために、英語で書かれた専門書を読む力をつける。各自選択したテーマについて秋学期に実証研究を行う素地を作るために、文献研究を行う。						
到達目標	英語の専門書を読み、要約や発表用レジメを作成し、内容を日本語で口頭発表することができるようになる。理論、専門用語、先行研究の内容を理解し、具体例をあげて説明やディスカッションができるようになる。各自が選択したテーマに沿った文献を探し、読み、論文の形式でまとめることができるようになる。						
評価方法	文献研究論文（30%）、発表（30%）、要旨の提出（20%）、授業時の積極参加（20%）						
評価基準	文献研究論文（30%） 複数の文献を読み、引用などの規則を適切に守り、論理的に論文が構成されているか。論文の内容が的確に要点を捉えているかどうか。自分の考えが明確に述べられているかどうか。 発表（30%） レジメの構成、レジメの内容が的確に要点を捉えているかどうか、発表の内容（理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか）、発表の態度（声の大きさ、話し方など） 要旨の提出（20%） 教科書各章の要約の提出（内容のポイントを捉えているかどうか、全回提出したかどうか）。 授業時の積極参加（20%） 授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	What do sociolinguists study?: Why do we say the same thing in different ways?	講義 ディスカッション	テキスト 1-3 頁精読し要約
2	What are the different ways we say things? Social factors, dimensions and explanations	講義 ディスカッション	テキスト 4-16 頁精読し要約
3	Regional and social dialects	学生の発表 ディスカッション	教科書 139-166 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
4	Gender	学生の発表 ディスカッション	教科書 167-182 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
5	Age	学生の発表 ディスカッション	教科書 183-193 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
6	Ethnicity and social networks	学生の発表 ディスカッション	教科書 194-213 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
7	Language change	学生の発表 ディスカッション	教科書 214-245 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
8	Style, context and register: addressee, accommodation theory	学生の発表 ディスカッション	教科書 255-265 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
9	Style, context and register: class, style in non-Western societies, register	学生の発表 ディスカッション	教科書 266-292 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
10	個人研究の進め方：文献の探し方、文献研究 論文の書き方、研究倫理教育	講義、演習	個人テーマの論文作成（論文 提出日まで継続）
11	Speech functions, politeness and cross-cultural communication	学生の発表 ディスカッション	教科書 293-311 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
12	Linguistic politeness in different cultures	学生の発表 ディスカッション	教科書 312-321 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
13	Gender, politeness and stereotypes	学生の発表 ディスカッション	教科書 322-345 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
14	Sexist language	学生の発表 ディスカッション	教科書 346-358 頁読み日本語 要約、発表者はレジメ作成
15	研究報告 リフレクション（学修ポートフォリオ）	学生の発表 ディスカッション	論文提出、発表準備 学修ポートフォリオ記入

テキスト	J. Holmes. <i>An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition</i> (Routledge). 田中典子『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』（春風社）
参考書	飯野公一ほか『新世代の言語学—社会・文化・人をつなぐもの』（くろしお出版） 岡本真一郎『ことばのコミュニケーション—対人関係のレトリック』（ナカニシヤ出版）
その他 特記事項	第1回から9回、11回から14回までは英語の予習、復習が必要である。

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	近藤 佐智子
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4208	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	社会言語学、語用論、言語のバリエーション、言語と文化、会話分析、実証研究						
授業の概要	ゼミナール I で得た社会言語学および語用論に関する知識を基に、個人で研究テーマを設定し、実際に調査研究を行い、成果を「ゼミ論文」としてまとめ、口頭でも発表する。その課程で論文の書き方、研究倫理、調査方法、分析方法、発表方法について学び、論文の完成に向けて段階的に準備を行う。						
達成目標	言語の分析能力を身に付けるために、学生は自ら実証研究を行い、その研究の妥当性や先行研究との関連を判断できるようになることを目標とする。また、他の学生の研究発表を聞き、ディスカッションをすることによって、論理的思考をし、論理的に他者を説得することができるようになる。						
到達目標	社会言語学や語用論の理論や先行研究をふまえて、実証研究ができるようになる。研究にあたっては、先行研究論文を批判的に読み、仮説が検証できるような研究計画を立て、データを分析し、その結果を先行研究結果と比較考察し、結論を導き出すことができるようになる。また、論理的に文章を組み立てて論文を書き、その内容を効果的な視覚的補助を用いて発表することができるようになり、他者の発表に対しても分析的な発言ができるようになる。						
評価方法	実証研究論文（40%）、発表（30%）、4 回の発表のレジメ提出（10%）、授業時の積極参加（20%）						
評価基準	実証研究論文（40%） テーマや仮説の設定が適切か、仮説が検証できる調査方法か、データ分析が適切か、研究結果が論理的に説明できているか、研究結果を先行研究と比較して検証しているか、定められた書式にそって書かれているか 発表（30%） 読んだ論文の報告、中間発表（1）、中間発表（2）、最終発表、の計 4 回の発表 発表の内容（理解して発表しているか、分かりやすく伝えることができたかどうか、的確に要点を捉えているかどうか） 発表の態度（声の大きさ、話し方などが効果的か） 4 回の発表のレジメ提出（10%） 読んだ論文の報告、中間発表（1）、中間発表（2）、最終発表、の計 4 回の発表レジメの提出（内容のポイントを捉えているかどうか、全回提出したかどうか） 授業時の積極参加（20%） 授業への参加度、ディスカッションにおける発言の質と量						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入: 個人研究の進め方、研究論文の読み方、研究倫理教育	講義	個人研究のデータ収集
2	読んだ論文の内容発表	学生の発表 ディスカッション	各自論文を 1 本読み発表の準備、個人研究データ分析

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
3	読んだ論文の内容発表	学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究データ分析
4	読んだ論文の内容発表	学生の発表 ディスカッション	各自論文を1本読み発表の準備、個人研究データ分析
5	研究中間報告発表（1）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
6	研究中間報告発表（1）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
7	研究中間報告発表（1）	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備
8	研究中間報告発表（2） ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、ゼミ論文作成
9	研究中間報告発表（2） ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、ゼミ論文作成
10	研究中間報告発表（2） ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	中間報告の準備、ゼミ論文作成
11	最終研究発表 ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文作成
12	最終研究発表 ゼミ論文作成	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文作成
13	最終研究発表	学生の発表 ディスカッション	最終発表の準備、ゼミ論文初稿提出
14	論文講評、論文修正	講義 論文修正	ゼミ論文の直し
15	総括 リフレクション（学修ポートフォリオ）	講義 ディスカッション	ゼミ論文最終稿提出 学修ポートフォリオ記入

テキスト	田中典子『はじめての論文: 語用論的な視点で調査・研究する』（春風社） プリント『論文テーマの決定と仮説の立て方』『論文の書き方』
参考書	『社会言語科学』社会言語科学会（学会誌）、『近藤ゼミ論文集』

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	丹木 博一
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	倫理学、平和学、人間のいのちの意味、共生						
授業の概要	人間のいのちに関する倫理的関心を深めながら、他者との平和的共生はいかにして可能かを考察する。ディスカッションを通して各自の研究関心を明確にし、そのテーマについて考えを深めるための研究手法を学び、研究成果をグループ発表の形で披露する。						
達成目標	倫理学と平和学の分野における基礎的な研究姿勢を養うことが達成目標である。						
到達目標	・ 互いにディスカッションを通して、理解を深めていく醍醐味を味わうことができる。 ・ 文献検索の方法や文献読解の手順を学び、問題を提起し探求する姿勢を身につける。 ・ グループのメンバーと協力して発表を準備し、研究発表の手法を学ぶ。 ・ 自分の研究テーマについて小論文の形で論述展開することができる。						
評価方法	授業毎の課題（15%）、授業参画（15%）、グループ発表（20%）、期末課題（2,500 字以上のレポート）（50%）						
評価基準	授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出したかどうか。 授業参画：毎回の授業中の意見交換に積極的に参加しているかどうか。 グループ発表：グループワークを通して研究関心を練り上げ、問いを提起し、その問いについて適切な文献を選び、それを正確に読解した上で、その内容の紹介とグループによる独自の考察を加えて、分かりやすく発表できるかどうか。 期末課題：複数の参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて問いを提起し、先行研究を理解した上で、理由を挙げて自分の考えを論じることができるかどうか。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	オリエンテーション	講義 自己紹介	自己紹介の準備。夏休み課題 (ブックノート) の提出
2	研究方法の紹介・文献検索及び文献読解の方法・研究倫理	講義	テキスト①第 1 章を読む。研究関心をまとめる。
3	各自の関心の確認とグループ分け 一次文献と二次文献	講義・グループ分け グループ作業	自分の研究関心に叶う文献を探し書誌データを記す。
4	グループごとの研究テーマの練り上げ テキスト批評の仕方を学ぶ	講義 グループ作業	テキスト①第 2 章を読む。
5	文献講読とテキスト批評	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト②「人はなぜ戦争をするのか」を要約する。
6	文献講読とテキスト批評	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト②「戦争と死に関する時評」1 を要約する。
7	文献講読とテキスト批評	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト②「戦争と死に関する時評」2 を要約する。
8	研究事例の紹介 グループ発表の仕方についての説明	講義 グループ作業	グループごとに研究計画を提出する。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	グループ発表についての事前確認と質疑応答・2年生の研究発表の見学	講義 2年生との合同授業	グループごとに研究の概要を提示する。
10	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。ブックレポート。
11	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。ブックレポート。
12	グループ発表	グループ発表 質疑応答・講評	発表の準備。ブックレポート。
13	グループ発表の振り返り 個人研究への導入	講義・小論文作成のエクササイズ	テキスト①第3章を読む。 小論文の構成を考える。
14	研究レポート（小論文）作成の手順を学ぶ	講義・小論文作成のエクササイズ	授業の2日後に期末課題提出
15	期末課題についてのフィードバック リフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）	講義 リフレクション・アンケート	ポートフォリオ提出

テキスト	① 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会） ② フロイト『人はなぜ戦争をするのか』（光文社古典新訳文庫）
参考書	授業中に適宜指摘する。
その他 特記事項	問題意識をもって主体的に授業に参画することを求める。発表前には担当教員と事前に入念な打ち合わせを行うこと。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	丹木 博一
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	哲学、倫理学、人間のいのちの意味、人間の尊厳						
授業の概要	哲学及び倫理学の分野に関する諸問題について、学生が自らテーマを選び、研究を進める。古典を読む力を身につけ、ブックレポートを行い、互いにディスカッションを通して、テーマに関する理解を深めていく。この積み重ねによって、研究方法と発表方法を学び、文献読解、問題提起、論述の論理展開、討論に関する基礎力を身につける。						
達成目標	哲学及び倫理学における基本的な研究能力を身につけることが達成目標である。						
到達目標	・毎回の授業において建設的に問いを提起し、討論を繰り広げることができる。 ・倫理学の古典を読む力をつけ、自ら問いを立て、研究を進めることができる。 ・研究に必要な文献を探して的確に読解し、理解内容を表現する力を身につける。 ・文献を批判的に読解し、自身の考えを自らの考えの軌跡を研究論文の形に仕上げるができる。						
評価方法	授業毎の課題 (15%)、授業参画 (15%)、ブックレポート (20%)、小論文 (4,000 字以上) (50%)						
評価基準	授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出したかどうか。 授業参画：積極的に授業に参加し、議論の深化発展に寄与できるかどうか。 ブックレポート：自らの問いを練り上げ、その問いに関する適切な研究文献を選び、その文献を正確に読解し、理解内容を分かりやすく表現するとともに、批判的に吟味し、自身の意見を提示できるかどうか。 小論文：自らの思考の軌跡を、研究論文の形式に仕上げ、分かりやすく論述できるかどうか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	オリエンテーション・文献検索の方法・テキスト批評の方法	講義	春休みの宿題(ブックノート)の提出
2	ブックレポートの方法・小論文の書き方・研究倫理	講義 ディスカッション	研究テーマについてのアンケート提出・文献検索
3	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト①「人生の短さについて」 pp.15-52 を要約し、疑問点を記す。
4	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト①「人生の短さについて」 pp.52-89 を要約し、疑問点を記す。
5	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト①「母ヘルウィアへのなぐさめ」 pp.93-140 を要約し、疑問点を記す。
6	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト①「母ヘルウィアへのなぐさめ」 pp.140-170 を要約し、疑問点を記す。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	文献講読とテキスト批評	講義 ディスカッション	テキスト①「心の安定に着いて」 pp.173-211 を要約し、疑問点を記す。
8	文献講読とテキスト批評	発表 ディスカッション	テキスト①「心の安定に着いて」 pp.212-258 を要約し、疑問点を記す。
9	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
10	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
11	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
12	ブックレポート	発表 ディスカッション	発表準備 ディスカッション準備
13	論文作成のエクササイズ	講義 エクササイズ	テキスト②第3章を読み、小論文の構成を考える。
14	論文作成のエクササイズ	講義 エクササイズ	授業の2日後に小論文提出
15	小論文についてのフィードバック リフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）	講義 ディスカッション	ポートフォリオ提出

テキスト	①セネカ『人生の短さについて 他2篇』（光文社古典新訳文庫） ②河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）
参考書	授業中に適宜指摘する。
その他 特記事項	問題意識をもって主体的に授業に参画することを求める。発表前には担当教員と事前に入念な打ち合わせを行うこと。

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	丹木 博一	
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4214	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要						学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。						4-⑤
キーワード	哲学、倫理学、人間のいのちの意味、人間の尊厳							
授業の概要	自らが選んだ研究テーマをさらに絞り込み、ゼミナールⅠの研究発表において確認した各自の課題を解決することできるように、さらに研究を進めていく。各自一回研究発表を行い、時間をかけて議論をし、テーマに関する理解を深め、足りない点を自覚しながら、最終的に首尾一貫した研究論文を作成する。							
達成目標	哲学及び倫理学の分野における研究発表能力及び論文作成能力を身につけることが達成目標である。							
到達目標	・毎回の授業において建設的に問いを提起し、討論を繰り広げることができる。 ・自らが提起した問いを研究的に追求し、古典を含む幅広い文献の読解に基づいて、説得力のある研究発表を行う力を身につける。 ・他の学生からの問いに応答する力を養い、適切な批判であればそれを受け入れ、粘り強く自らの論考を練り直し、説得力のある研究論文の形に仕上げるができる。							
評価方法	授業毎の課題（15%）、授業参画（15%）、研究発表（20%）、ゼミ論文（10,000 字以上）（50%）							
評価基準	授業毎の課題：事前に指示した通り課題を行い提出したかどうか。 授業参画：授業中のディスカッションに積極的に参加し、議論の創造的発展に寄与できるかどうか。 研究発表：自身の哲学的・倫理的な問いを練り上げ、先行研究を踏まえて、その問いに説得力のある回答を与えようと努めた成果を、分かりやすく発表できるかどうか。 ゼミ論文：自分が提起した哲学的・倫理的な問いについて、多様な議論に耳を傾けながら自分の立場を提示し、その妥当性について理由を挙げて論述できるかどうか。							
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	オリエンテーション・研究能力育成のためのエクササイズ・研究倫理	講義・ディスカッション・エクササイズ	夏休みの課題(ブックノート)提出
2	文献講読とテキスト批評のエクササイズ	講義・ディスカッション・エクササイズ	研究テーマ提出 テキスト①pp.22-37 を要約し、問題を提起する。
3	文献講読とテキスト批評のエクササイズ	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト①pp.38-51 を要約し、問題を提起する。
4	文献講読とテキスト批評のエクササイズ	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト①pp.52-71 を要約し、問題を提起する。
5	文献講読とテキスト批評のエクササイズ	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト①pp.72-98 を要約し、問題を提起する。
6	文献講読とテキスト批評のエクササイズ	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト①pp.100-117 を要約し、問題を提起する。
7	文献講読とテキスト批評のエクササイズ	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト①pp.118-137 を要約し、問題を提起する。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	文献講読とテキスト批評のエクササイズ	講義・ディスカッション・エクササイズ	テキスト①pp.138-156 を要約し、問題を提起する。
9	研究発表の方法とゼミ論文作成の手順	講義・エクササイズ	テキスト②の第3章以下すべてを読む。
10	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ブックレポート提出
11	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ブックレポート提出
12	研究発表	発表 ディスカッション	発表準備 ブックレポート提出
13	研究発表の振り返り ゼミ論文の書き方	講義 エクササイズ	ゼミ論文初校提出
14	ゼミ論文初校についての講評 よりよい論文にするためのエクササイズ	講義 エクササイズ	ゼミ論文への加筆修正
15	まとめ・リフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）	講義 リフレクション・アンケート	ゼミ論文提出

テキスト	①アリストテレス『ニコマコス倫理学（上）』（光文社古典新訳文庫） ②河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）
参考書	授業中に適宜指摘する。
その他 特記事項	問題意識をもって主体的に授業に参画することを求める。発表前には担当教員と事前に入念な打ち合わせを行うこと。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	森下 園
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	歴史学の作法、史料論、アカデミックスキルズ						
授業の 概要	歴史学の作法と先行研究の読み方・資料の探し方、口頭発表の仕方などのアカデミックスキルズを学び、専門の文献の輪読と要約を行う。						
達成目標	先行研究の読み方、発表の仕方、質疑応答などのアカデミックスキルを学ぶ。具体的には、①専門の文献をディスカッションしながら輪読することで、先行研究の読み方を学び、②テキストの要約発表を通して、先行研究への批判的な読み方と発表資料の作り方、発表の仕方を学ぶ。③ディスカッションや発表後の適切な発言・質問の仕方を学ぶ。						
到達目標	①テキスト 2 所収の論文の輪読を通して、先行研究の読み方が身につく。 ②テキスト 2 所収の論文の要約発表を通して、先行研究の批判的な読み方、ポイントのまとめ方、発表資料の作り方、発表の作法が身につく。 ③輪読での発言、要約発表の質疑応答により、アカデミックな場の発言の作法が身につく。 ④輪読、要約発表を振り返り、他の学生の発言や講評を踏まえて反省することが身につく。						
評価方法	①文献輪読：20% ②要約発表：30% ③輪読参加・要約発表への質問：30% ④輪読・要約発表の反省レポート：20%						
評価基準	①文献輪読：割り当てページの十分な予習と当日のディスカッションのリードが適切にできているか。 ②テキスト要約発表：担当文献を理解するために必要な下調べをしたのち、批判的な読みを行い、内容をアカデミックスタイルの発表資料に章ごとにまとめて結論をつけ、適切な話し方で発表をしているか。 ③輪読に積極的に参加しているか、十分な予習を行っているか、要約発表に適切な質問を出しているか。 ④輪読・要約発表の仕方・参加について学んだこと、反省点を適切な文章でまとめているか。						
準備学修 の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	プレ・ゼミの概要説明 歴史学の作法と研究倫理について	講義、質疑応答	振り返り、 テキスト 1 の 38-49 頁の予習
2	文献輪読についての説明 予習の仕方について	講義、質疑応答、グループワーク	輪読文献の予習 テキスト 1 の 50-57 頁の予習
3	文献の読み方、探し方について 要約発表担当の決定と必要な準備	講義、質疑応答、グループワーク	輪読文献の予習 テキスト 1 の 70-81 頁の予習
4	文献輪読と質疑応答①	輪読、ディスカッション、講評	文献輪読の準備 振り返り
5	文献輪読と質疑応答②	輪読、ディスカッション、講評	文献輪読の準備 振り返り

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	文献輪読と質疑応答③	輪読、ディスカッション、講評	文献輪読の準備 振り返り
7	文献輪読と質疑応答④	輪読、ディスカッション、講評	文献輪読の準備 振り返り
8	文献輪読と質疑応答⑤	輪読、ディスカッション、講評	文献輪読の準備 テキスト1の82-97頁の予習
9	文献の批判的な読み方、要約の仕方、 要約発表レジュメの作り方	講義、質疑応答、グループワーク	要約発表の準備 振り返り
10	テキストの要約発表①	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表の準備 振り返り
11	テキストの要約発表②	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表の準備 振り返り
12	テキストの要約発表③	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表の準備 振り返り
13	テキストの要約発表④	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表の準備 振り返り
14	テキストの要約発表⑤	要約発表、質疑応答、 講評	要約発表の準備 振り返り
15	ゼミⅠでの研究希望テーマ発表、リフレクシ ョンタイム（学修ポートフォリオ記入）反省 レポート提出	発表、振り返り、学修 ポートフォリオ記入	学修ポートフォリオ用意 振り返り

テキスト	1. 桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング（改訂版）』（実教出版） 2. 上智大学史学科編『歴史家の散歩道』（Sophia University Press）
参考書	J・H・アーノルド『1冊でわかる歴史学』（岩波書店）

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	森下 園
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	歴史学、史資料論、論文作成作法、プレゼンテーション						
授業の概要	より難易度の高い学術論文の輪読を通して、先行研究の読み方、論文作成の作法を学ぶ。並行してゼミ研究のテーマを決め、参考資料や先行研究の収集を行い、ゼミ論文の構成までを決めて発表する。テーマは歴史学領域のほか、ジェンダー問題・紛争解決・環境問題などの時事問題、経済・経営や業界研究などからも設定できるが、歴史的背景を織り込むか、または社会史の観点を入れるなど歴史の視点を含めた研究を行うこととなる。						
達成目標	引用注のついた学術論文を読みこなし、同じようなスタイルで自分の論文の構成を考えることができるようにする。関心のある研究テーマを設定し、輪読した学術論文を手本に、適切な文献・資料を選定し、一部の要約発表をする。それをもとにゼミ論文の構成を決めて中間報告を作成する。また他の学生の発表を聞いて、適切な意見を出せるようにする。						
到達目標	①論文の輪読を通して、学術論文の構成や書き方が身につく。 ②各自が関心のある研究テーマを設定し、それに関連した史資料と先行研究を探し、先行研究を読んで要約ができる。 ③先行研究を読み始めながら、ゼミ論文の構成を決めることができる。 ④輪読への参加や発表の質疑応答を通して、適切に意見や助言を述べられるようになる。						
評価方法	①輪読：20% ②研究テーマおよび先行研究に関する発表：30% ③個人研究の中間報告：20% ④輪読・発表への参加：30%						
評価基準	①輪読：割り当て部分の十分な予習とディスカッションのリードが適切にできているか ②発表：適切にテーマ設定がなされているか、先行研究のポイントをきちんとつかんでいるか ③中間報告：論文構成がアカデミックな形式にのっとっているか、無理のない構成となっているか ④輪読、発表に積極的に参加しているか、発言しているか						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ゼミ I の概要、各学生のテーマ発表 研究倫理について、学術論文の読み方	講義、質疑応答、グループワーク	学術論文の予習 テキスト 1 の 12-35 頁予習
2	学術論文の輪読①	輪読、ディスカッション、講評	学術論文の予習 先行研究・資料探し
3	学術論文の輪読②	輪読、ディスカッション、講評	学術論文の予習 先行研究・資料探し
4	学術論文の輪読③	輪読、ディスカッション、講評	学術論文の予習 先行研究・資料探し
5	学術論文の輪読④	輪読、ディスカッション、講評	学術論文の予習 先行研究・資料探し
6	学術論文の輪読⑤	輪読、ディスカッション、講評	学術論文の予習 先行研究・資料探し

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	学術論文の読み方のまとめ、先行研究の使い方の確認	講義、質疑応答、グループワーク	先行研究紹介準備 テキスト1の86-105頁予習
8	研究テーマと先行研究紹介①	発表、質疑応答、講評	先行研究紹介準備 研究構成を検討
9	研究テーマと先行研究紹介②	発表、質疑応答、講評	先行研究紹介準備 研究構成を検討
10	研究テーマと先行研究紹介③	発表、質疑応答、講評	先行研究紹介準備 研究構成を検討
11	研究テーマと先行研究紹介④	発表、質疑応答、講評	先行研究紹介準備 研究構成を検討
12	研究テーマと先行研究紹介⑤	発表、質疑応答、講評	先行研究紹介準備 研究構成を検討
13	研究テーマと先行研究紹介⑥	発表、質疑応答、講評	先行研究紹介準備 研究構成を検討
14	研究テーマと先行研究紹介⑦	発表、質疑応答、講評	先行研究紹介準備 中間報告の作成
15	中間報告の提出、リフレクションタイム（学修ポートフォリオの記入）	振り返り、学修ポートフォリオ記入	学修ポートフォリオ用意

テキスト	1. 桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング（改訂版）』（実教出版） 2. 井上茂子「社会国家の歴史におけるナチ時代：労働者政策と福祉政策を事例にして」『上智史学』44号、1999年、89-120頁（上智大学学術情報リポジトリより入手可能） （ http://digital-archives.sophia.ac.jp/repository/view/repository/00000009856 ）
参考書	上智大学史学科編『歴史家の窓辺』（上智大学出版）

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	森下 園	
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要						学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。						4-⑤
キーワード	歴史学、史資料論、プレゼンテーション、論文作成							
授業の概要	ゼミ I に引き続き、各自が選んだ研究テーマにそって個人報告を行い、内容をゼミ論文にまとめる。トピックは、歴史学などの専門領域のほか、ジェンダー問題・紛争解決・環境問題などの時事問題、経済・経営や業界研究などからも設定できるが、歴史的背景を織り込む、または社会史の観点を入れるなど歴史の視点を含めた研究を行うこととなる。							
達成目標	研究に必要な文献・資料を自ら選定して読み込み、発表レジュメおよびパワーポイントスライドを用いた研究報告として発表できるようにする。また、文献・資料を適切に引用したゼミ論文を作成できるようにする。							
到達目標	①春学期の先行研究紹介と中間報告を踏まえて、レジュメとパワーポイントスライドを作成し、アカデミックなスタイルでの研究報告ができるようになる。 ②また、他の学生の発表に対する質疑応答を通して改善点を学ぶことができる。 ③研究報告内容を、文献・資料を引用し、引用註をつけたアカデミックな書式でのゼミ論文にまとめることができる。							
評価方法	①レジュメ・パワーポイントスライドを用いた研究報告（2 回）が 30%、 ②報告に対する批評・質問が 30%、 ③A4 で 10 枚以上のゼミ論文が 40%となる。							
評価基準	①テーマが適切に設定されているか、レジュメや資料スライドが書式を守って作成されているか、発表内容がきちんと整理されているか、話し方が適切であるか、参考文献リストがきちんとついているか ②積極的に質問や意見を述べているか ③締め切り・書式を守り、先行研究を複数踏まえて書かれているか、適切な引用注・参考文献リストがついているか							
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	夏季休暇中の成果報告 研究倫理について	発表、講義、質疑応答	成果報告準備 テキスト 1 の 106-113 頁予習
2	研究発表用のレジュメ、パワーポイントスライド作成上の注意、事例	講義、質疑応答、グループワーク	研究発表準備
3	研究報告の準備、ゼミ論文作成上の注意	講義、質疑応答、グループワーク	研究発表準備
4	中間研究報告①	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備
5	中間研究報告②	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備
6	中間研究報告③	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備
7	中間研究報告④	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	中間研究報告⑤	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備
9	中間研究報告⑥	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備
10	中間研究報告⑦	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備
11	最終研究報告①	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備 ゼミ論文執筆
12	最終研究報告②	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備 ゼミ論文執筆
13	最終研究報告③	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備 ゼミ論文執筆
14	最終研究報告④	研究報告、質疑応答、講評	研究発表準備 ゼミ論文執筆
15	ゼミ論文の提出、講評、総括、リフレクシ ョンタイム（学修ポートフォリオ記入）	講評、総括、学修ポー トフォリオ記入	ゼミ論文執筆 学修ポートフォリオ準備

テキスト	桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング（改訂版）』（実教出版）
参考書	上智大学史学科編『歴史家の窓辺』（上智大学出版）

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	宮崎 幸江
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4217	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-⑤, 5-①
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティの言語と文化、ニューカマー、オールドカマー、日本の言語教育政策						
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、各自がテーマを決めて 1 年かけて自主的に学ぶ。ゼミナール I では、研究テーマへの導入として、ゼミ全体で地域の言語マイノリティの子どもと教育についてグループごとに研究し、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行う。						
達成目標	本科目は、日本における言語マイノリティの現状について正しい知識を身に付け、テーマにそって課題研究をすることを目標とする。						
到達目標	学期の終わりまでに、言語マイノリティの教育問題を理解できるようになる。また、文献をもとに、それらの問題を批判的に分析することができるようになる。						
評価方法	授業への積極的参加 20%、口頭発表 30%、期末レポート 50%						
評価基準	授業参加：準備として文献を読んだ上でディスカッションに臨んでいるかどうか、具体的、建設的な意見を述べることで、問題解決に向けた討議の活性化に貢献したかどうかで評価する。 口頭発表：言語マイノリティの教育問題のポイントを、自らの研究テーマの視点からとらえ表現できるかで評価する。 期末レポート：文献をもとに、言語マイノリティの教育問題を批判的に分析できる。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ゼミナール I の進め方についての説明 グループ分けについて	講義、ディスカッション	研究テーマ絞り込み
2	第 6 章 多文化共生社会の実現にむけて	講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
3	第 7 章 多様化する外国籍の子どもと多文化教育の変容	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
4	第 8 章 文化・ことばと国際理解教育	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
5	第 9 章 教師の多文化の子どもに対する意識と国際理解教育の実践	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
6	第 10 章 多文化家庭、学校、地域の連携とエンパワメント	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
7	対談 1 多文化の子どものことばとアイデンティティ	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
8	対談 2 多文化共生に必要な「文化力」	発表、講義、ディスカッション	文献講読、ノートにまとめる、要約、発表準備
9	論文の構造	講義、ディスカッション	研究テーマ絞り込み

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	文献の読み方・まとめ方	講義、ディスカッション	研究テーマ絞り込み
11	調査の方法と結果のまとめ方	講義、ディスカッション	研究テーマ絞り込み
12	論文テーマ発表 研究の計画をたてる	講義、ディスカッション	文献講読、論点を考える、 アウトライン作成
13	アウトライン作成	講義他	文献講読、発表準備
14	レポートの書き方・研究倫理	講義	期末レポート作成
15	まとめ、リフレクションタイム（学修ポート フォリオ作成）	学修成果の振り返り	期末レポート作成

テキスト	宮崎幸江（編）『多文化の子どもと教育 ことばと文化のはざまに生きる』（上智大学出版）
参考書	川上郁男 2010 『「私も移動するこども」だった』（くろしお出版）

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4217	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針) 概要						学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。						4-⑤, 5-①
キーワード	バイリンガリズム、言語マイノリティの言語と文化、言語教育政策、多文化共生							
授業の概要	日本における言語マイノリティの子どもの教育と多文化共生について、各自がテーマを決めて1年かけて自主的に学ぶ。ゼミナール II では、ゼミナール I で学んだことを発展させて課題研究を行う。先行研究の読み方、研究課題の絞り方、調査方法と結果のまとめ方等についてもクラスで学び、学年末にゼミ論文を書く。							
達成目標	本科目は1年次から参加してきたコミュニティフレンドまたはカレッジフレンドでの経験と、日本語教育概論・演習、プレゼミナール等で学んだ知識を総合させて、多文化共生社会の現状や課題について批判的に考える力を養うことを目標とする。							
到達目標	学期終了までに、プレゼンテーションやディスカッションをするスキルも上達させ、多文化共生社会に関するゼミ論文を書く。							
評価方法	授業への積極的参加 20%、口頭発表 30%、ゼミ論文 50%							
評価基準	授業参加：準備として文献を読んだ上でディスカッションに臨んでいるかどうか、積極的に質問をすることで、自分とは異なる他者の意見を理解しようとしているかどうか、具体的、建設的な意見を述べることで、問題解決に向けた討議の活性化に貢献したかどうかで評価する。 口頭発表：各自の研究テーマにそってポイントを述べ、問題解決に向けた考察ができているかを評価する。 ゼミ論文：文献をもとに、言語マイノリティの教育問題を批判的に分析し、論文にまとめる力を評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	夏休みの研究報告 1	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
2	夏休みの研究報告 2	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
3	夏休みの研究報告 3	発表と質疑応答、ディスカッション	プレゼン準備
4	卒業研究の計画	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
5	文献講読 1 各自研究テーマに関する文献のレポート	講義、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
6	文献講読 2 過去 2 年間のゼミ論文を読む	講義、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
7	卒業研究グループディスカッション	講義、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
8	ゼミ論文の書き方 1	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	卒業研究中間発表	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備
10	卒業研究中間発表	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、発表準備
11	ゼミ論文の書き方2	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
12	ゼミ論文アウトライン発表	発表と質疑応答、ディスカッション	文献講読、テーマ絞り込み
13	ゼミ論文指導	講義	文献講読、テーマ絞り込み
14	レポートの書き方・研究倫理	講義	ゼミ論文作成
15	まとめ、リフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）	学修成果の振り返り	ゼミ論文作成

テキスト	宮崎幸江（編）『多文化の子どもと教育 ことばと文化のはざまに生きる』（上智大学出版）
参考書	中島和子 1998『完全改訂版 パイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること』（アルク）
その他 特記事項	1年次から継続してきたサービスラーニング活動から、地域社会の課題解決に向けたアクティブラーニングを行ない卒業研究とする。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	飯田 純也
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4216	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	物語、研究、研究倫理、経済成長、資本主義、国家、企業、格差、世界大戦、冷戦						
授業の 概要	歴史は勝者によって書かれるという。しかし古代アテネの詩人は、勝者の側でありながら、敗者の立場から悲劇を描く。物語研究をはじめると、歴史が必要とされる現代の状況を概観する。この作業を通して、各自問題意識と歴史意識を明確化することになるだろう。資料は映像資料を中心に使う。授業は毎回グループワーク主体で行う。						
達成目標	セメスター前半では、映像資料を見てもらい、問題発見・問題解決に向け、グループで情報を収集したり評価したり編集したりしながら、協調性、積極性、自己管理、問題発見能力、問題解決能力を身につける。後半では、物語の内容を理解する語学力と、物語の世界を分析的、批判的、論理的に説明する思考力の獲得を目指す。						
到達目標	1. リサーチの方法を身につけることができる 2. 協調性、積極性、自己管理能力を身につけることができる 3. 問題発見能力、問題解決能力を身につけることができる 4. 問題意識と歴史意識を持って、人間のゲーム性を批判的に見ることができる 5. 人文科学、社会科学を学ぶ動機を得ることができる 6. 自らの洞察、分析、推理、仮説を根拠付けて説明することができる						
評価方法	1. 授業参加は毎回のシャトルカードとグループワークの内容 (40%) 2. 中間レポートとペアワークの内容 (60%)						
評価基準	1. 授業参加 (40%) a. シャトルカード (20%) ①問題の背景を理解しているか、②問題を明確化することができているか、③相手を説得する根拠を選び、全体を因果関係で構成しているか、④自分のことばで、自分の見解を表現しているか。毎回、①②③④の観点から評価される。シャトルカードを通じて質問を行うとき、加減点。誤字等がチェックされているか。チェックされていないとき、減点。課題提出期限が守られているか。守られていないときは、減点。 b. グループワーク (20%) 問題発見・問題解決に向け、積極的、協調的、計画的に取り組んでいるとき、満点。協調性、積極性、自己管理能力がないとき、減点。欠席のとき、事前に報告して許可を得ているか。無断欠席のとき、減点。遅刻、授業時間中の居眠り、私語等を注意されたとき、減点。 2. 中間レポートとペアワーク (60%) a. 中間レポート (40%) 問題設定がオリジナルであり、リサーチ手順が守られ、論理的、説得的に論じられているか。問題設定がオリジナルであり、リサーチ手順が守られ、論理的、説得的に論じられているとき、満点。レポートの内容がオリジナルでないとき、減点。全体が剽窃であると判断されたとき、0点。「論理的、説得的に論じる」では、シャトルカードの評価基準①②③④と同じ。誤字等がチェックされているか。チェックされていないとき、減点。課題提出期限が守られているか。守られていないときは、減点。書式や指定の字数が守られているか。守られていないときは、減点。 b. ペアワーク (20%) 相互にリサーチとレポートの完成に向け、積極的、協調的、計画的に取り組んでいるとき、満点。協調性、積極性、自己管理能力がないとき、減点。シャトルカードを通じて教員に質問を行うとき、満点。質問を行わないとき、減点。						
準備学修 の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	オリエンテーション 研究倫理	自己紹介、講義	自己紹介準備
2	大きく問うことではじめる（1） 問題意識：経済「世界の成長は続くのか」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
3	大きく問うことではじめる（2） 問題意識：経済「国家 vs 超巨大企業」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
4	大きく問うことではじめる（3） 問題意識：経済「巨大格差」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
5	教訓を語ろう（1） 学問の基盤：歴史「第1次世界大戦」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
6	教訓を語ろう（2） 学問の基盤：歴史「大戦間時代」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
7	教訓を語ろう（3） 学問の基盤：歴史「第2次世界大戦」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
8	教訓を語ろう（4） 学問の基盤：歴史「冷戦」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
9	教訓を語ろう（5） 学問の基盤：歴史「1960年代」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
10	教訓を語ろう（6） 学問の基盤：歴史「21世紀」	講義、グループワーク	課題映像資料の視聴等の準備、グループワーク準備
11	個人研究オリエンテーション 歴史主義批判	講義、グループワーク	個人研究テーマ決定へ文献リサーチ
12	文献研究指導（研究倫理） 個人研究	講義、グループワーク	文献リサーチ
13	文献研究指導 個人研究	講義、グループワーク	文献リサーチ、中間レポートの準備
14	個人研究	ペアワーク、中間レポート提出	文献リサーチ、中間レポートの準備
15	リフレクション・タイム（学修ポートフォリオ作成）	講評、ポートフォリオ記入	中間レポートの提出、学修成果の振り返り

テキスト	この授業では教材として以下の映像作品を紹介します。NHK「マネー資本主義」（2012年）NHK「新映像の世紀」（2015年）
参考書	Gardner, Dan. <i>Future Babble: How to Stop Worrying and Love the Unpredictable</i> (Virgin Books).

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	飯田 純也
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4216	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	文学、倫理、ゲーム、教育、メディア、社会、性、法律、科学、政治、戦争、国家						
授業の概要	このゼミでは、人文科学及び社会科学の諸問題を研究する準備として、広義の文学作品の研究の実践を通して、研究の意義と方法を学ぶ。授業では英語文献講読を行う。同時に学生は個人研究を自ら設定したテーマで行う。春学期は個人研究の中間発表を行い、他者の意見、助言を取り入れ、中間レポート（日本語 2,000 字以上）を提出する。発表者は発表当日、他の学生から建設的質問を引き出すように工夫しなければならない。						
達成目標	達成目標は、英語文献を読解できる能力と、自ら選んだテーマについて、文献資料の分析から得た根拠を使い、自分の見解を説得的に論じることができる能力を身につけることである。到達目標には以下のことが含まれる。						
到達目標	1. 社会的、歴史的背景の中で問題を発見、評価、設定することができる 2. 上の 1 をふまえ、自らの意見、主張を根拠付けて説明することができる 3. 上の 1 と 2 をふまえ、自分が導いた結論と対立する意見に対して、複数の根拠を上げながら、効果的に説得することができる 4. 英語文献を使い、文献研究をすることができる						
評価方法	1. 中間発表 20%、2. 中間レポート 10%、3. 英語文献講読 40%、4. ゼミ参加状況、特に他の学生の発表時の積極的関与 30%						
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	オリエンテーション 文学と倫理学の関係性	講義、質疑応答、グループワーク	事前に研究テーマの候補を複数考える
2	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> Contemporary Ethical Controversies	講義、質疑応答、グループワーク	テキスト指定箇所予習、個人研究の準備（情報収集）
3	Contemporary Ethical Controversies 個人研究に向け主題、目的、方法の検討	講義、質疑応答、グループワーク	テキスト指定箇所予習、個人研究の準備（情報収集）
4	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> Chapters 2-5	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約の準備、個人研究の準備（情報収集）
5	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> Chapters 6-11	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約の準備、個人研究の準備（情報収集）
6	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> Chapter 12: A Perspective on History	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約の準備、個人研究の準備（情報収集）
7	<i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> ディスカッション	ディスカッション、講評	ディスカッションに向け準備、個人研究の準備
8	<i>Political Philosophy</i> Chapters 1-5	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約の準備、個人研究の準備（情報分析）
9	<i>Political Philosophy</i> Chapter 6: Feminism and Multiculturalism	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約の準備、個人研究の準備（情報分析）

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	<i>Political Philosophy</i> Chapter 7: Nations, States, and Global Justice	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約の準備、個人研究の準備（情報分析）
11	<i>Political Philosophy</i> ディスカッション	ディスカッション、講評	ディスカッションに向け準備、個人研究の準備
12	中間発表（全員アウトライン発表） 研究倫理再確認	学生発表、質疑応答、講評	中間発表のアウトラインの準備
13	中間発表（個別）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備、中間レポートの提出
14	中間発表（個別）	学生発表、質疑応答、講評	質問を用意、中間発表の準備、中間レポートの提出
15	中間発表（個別）リフレクション・タイム（学修ポートフォリオ作成）	学生発表、質疑応答、講評、個人指導	質問を用意、中間発表の準備、中間レポートの提出

テキスト	1. Ruggiero, Vincent Ayan. <i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> (McGrow-Hill). 2. Miller, David. <i>Political Philosophy: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
参考書	1. Binmore, Ken. <i>Game Theory: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). 2. Ruthven, Malise. <i>Islam: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	飯田 純也
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4216	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	文学、倫理、ゲーム、教育、メディア、社会、性、法律、科学、政治、戦争、国家						
授業の 概要	このゼミでは、人文科学及び社会科学の諸問題を研究する準備として、広義の文学作品の研究の実践を通して、研究の意義と方法を学ぶ。授業では英語文献講読を行う。同時に学生は個人研究を自ら設定したテーマで行う。文献資料の分析、解釈を行い、研究成果をゼミ論文（日本語 4,000 字以上）にまとめる。						
達成目標	達成目標は、英語文献を読解できる能力と、自ら選んだテーマについて、文献資料の分析から得た根拠を使い、自分の見解を説得的に論じることができる能力を身につけることである。到達目標には以下のことが含まれる。						
到達目標	1. 社会的、歴史的背景の中で問題を発見、評価、設定することができる 2. 上の 1 をふまえ、自らの意見、主張を根拠付けて説明することができる 3. 上の 1 と 2 をふまえ、自分が導いた結論と対立する意見に対して、複数の根拠を上げながら、効果的に説得することができる 4. 英語文献を使い、文献研究をすることができる						
評価方法	1. 最終発表 20%、2. ゼミ論文 30%、3. 英語文献講読 40%、4. ゼミ参加状況 10%						
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。						
準備学修 の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	オリエンテーション 英語文献の紹介	講義、質疑応答、グループワーク	ゼミ論文の状況報告
2	<i>Game Theory</i> Chapter 1: The Name of the Game	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の読解、ゼミ論文の準備
3	<i>Game Theory</i> Chapters 2-5 発表	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約、ゼミ論文の準備
4	<i>Game Theory</i> Chapters 2-5 討論	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約、ゼミ論文の準備
5	<i>Game Theory</i> Chapters 6-10 発表	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約、ゼミ論文の準備
6	<i>Game Theory</i> Chapters 6-10 討論	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約、ゼミ論文の準備
7	<i>Islam</i> Chapters 1-4	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の要約、ゼミ論文の準備
8	<i>Islam</i> Chapter 5: Women and Family 発表	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の読解、ゼミ論文の準備
9	<i>Islam</i> Chapter 5: Women and Family 討論	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の読解、ゼミ論文の準備
10	<i>Islam</i> Chapter 6: The Two Jihads 発表	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の読解、ゼミ論文の準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	<i>Islam</i> Chapter 6: The Two Jihads 討論	学生発表、質疑応答、グループワーク	担当箇所の読解、ゼミ論文の準備
12	最終発表 研究倫理再確認	講義、学生発表、質疑応答	ゼミ論文最終発表の準備
13	最終発表	学生発表、質疑応答、講評	ゼミ論文最終発表の準備
14	最終発表	学生発表、質疑応答、講評	ゼミ論文最終発表の準備、ゼミ論文提出
15	リフレクション・タイム（学修ポートフォリオ作成）	学生発表、質疑応答、講評、個人指導	ポートフォリオの作成

テキスト	1. Binmore, Ken. <i>Game Theory: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). 2. Ruthven, Malise. <i>Islam: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
参考書	1. Ruggiero, Vincent Ayan. <i>Thinking Critically About Ethical Issues</i> (McGrow-Hill). 2. Miller, David. <i>Political Philosophy: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	神谷 雅仁
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4215	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	英語力の向上、アカデミック・スキルズの鍛錬、言語学に関する学び、自己研究の基礎						
授業の概要	本講は自己研究を念頭に置いたアカデミック・スキルズのトレーニング、英語力の向上、そして言語学の分野に関する基礎的な知識の習得という 3 つの大きな柱から構成されている。テキストは言語学の知識を深め、同時に英語力を高める目的で書かれた言語学の入門書が指定されている。さらに TOEIC 関連の英語の語彙も学期を通して学ぶ。また総合的な英語力を英字新聞などの記事を利用しながら養っていく。同時に学生たちは自分の担当するチャプターをレジюмеにまとめ、口頭発表をすることで発表の仕方も学んでいく。						
達成目標	学生たちはチャプター・プレゼンテーションを通し、発表の仕方やレジюмеの作り方、また発表後のディスカッションの仕方を学び、実践する。同時に学生たちは英語で書かれたテキストを通し、専門的な内容を英語で読むということへの慣れができる。また英字新聞や雑誌の記事を使い chunk-reading や chunk-writing、和訳や reaction を書くなどの言語活動をする中で英語力の底上げも可能となる。そして次年度のゼミ I、II で扱うことになる社会言語学をはじめとする言語学の領域を概観することで、この分野の基礎固めが可能となる。						
到達目標	学生たちはプレゼンテーションに向けた準備を通し、英語で書かれたテキストをまとめ、レジюмеを作成することができるようになる。ディスカッションについても、聞き手として単なる意見交換をするのではなく、発表の内容をクリティカルにとらえ、自らの意見や見解を発表者にわかりやすく伝えられるようになる。英語学習に関しては、英語の文構造や語の配列を徹底的に学ぶことで、英語の読解力が向上する。最後に、チャプタープレゼンテーションとチャプターサマリーを通し、言語学の分野の全体像および個別の理論や考え方についての理解を深め、その後の自己研究へとつながられるようになる。						
評価方法	・英語の課題およびその他の提出物：20% ・ボキャブラリー・クイズ：20% ・チャプター・プレゼンテーション（口頭発表）& その後のディスカッション：20% ・チャプター・サマリー（当該チャプターの要約）：20% ・学期末ペーパー：20%						
評価基準	・英語の課題：英語で書かれた新聞や雑誌等の記事を題材に、読む、書く、和訳、ボキャビルの総合的言語学習が毎週、十分な量と回数が実行できたかどうか問われる。 ・ボキャブラリークイズ：TOEIC Test 用の vocabulary 学習が日々課せられるが、その理解、定着がなされているかが問われる。 ・プレゼンテーション：自らが担当するチャプターの内容がわかりやすく、また大学レベルにふさわしいかたちでまとめられているか（概念や理論を含めた用語の定義が言語例とともに説明されているか、レジюмеの基本的な書き方に沿っているか、著者による見解と自分の考えが明確に区別されているか、参考文献リストがあるかどうか等）が問われる。 ・サマリー：発表者以外は全員その週の発表チャプターを読み、そのサマリーを提出することが課せられるのだが、提出回数およびその内容の出来によって評価される。 ・学期末ペーパー：自分がプレゼンテーションで扱ったテーマについて、さらに文献を読み、より深いあるいは広いスコープでレポートに仕上げられているかが問われる。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Course overview	Lecture, discussion	Read the first section of the textbook
2	On Pre-seminar: Introduction Talking about learning academic skills 研究倫理について	Lecture, discussion group work, doing exercises, voc. quiz	Review the handout, Start the assignments, vocabulary
3	What is Linguistics? 言語学とは	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 1): read and write a summery
4	How English Has Changed over the Centuries <History of English> 英語の歴史	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 2): read and write a summery
5	The Sounds of English <Phonetics and Phonology> 人間の出す音	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 9): read and write a summery, vocabulary
6	How Words Are Made <Morphology> 語形成	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 3): read and write a summery
7	How Words Mean <Semantics 1> 語の意味	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 4): read and write a summery, vocabulary
8	How English Phrases Are Formed <Syntax 1> 句構造・文構造	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 5): read and write a summery
9	How Sentences Mean <Semantics 2> 句・文の意味	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 7): read and write a summery
10	How to Communicate with Other People <Pragmatics> 発話の意味	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 8): read and write a summery, vocabulary
11	Regional Varieties of English: <Sociolinguistics 1> 地域方言	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 10): read and write a summery
12	English in Society <Sociolinguistics 2> 社会方言	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 11): read and write a summery, vocabulary
13	How English is Acquired <Psycholinguistics> 言語習得	Students' presentation, discussion, feedback	Textbook (chapter 12): read and write a summery
14	Textbook review Course review	Students' presentation, discussion, feedback	Review of the course Work on the term paper
15	Reflection Time 学修ポートフォリオ記入	Students' reflection and Write the portfolio	Continue working on the term paper 学修ポートフォリオ

テキスト	影山太郎、ブレント・デ・シェン、日比谷潤子 <i>First Steps in English Linguistics</i> （くろしお出版）
参考書	長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学』（研究社） 飯野公一ほか（著）『新世代の言語学』（くろしお出版）
その他 特記事項	「言語学概論」あるいは「日本語学」を同時履修が望ましい。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	神谷 雅仁	
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4215	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤	
キーワード	社会言語学、言語バリエーション、社会方言、地域方言、言語使用、バイリンガリズム							
授業の概要	本講では専門書を英語で読む、自己研究テーマに沿って発表をする、様々な言語事象についてディスカッションをする、専門分野に関するレポートを作成するなどのアカデミック・スキルズ修練のための活動を、社会言語学という専門分野の内容を題材に行っていく。学期前半は社会言語学に関する指定テキストを輪読しながら、言語使用とそのバリエーションについて学び、後半は社会言語学の分野から各自がテーマを選択し、そのテーマに沿って文献を調べ、まとめ、そしてその発表を行っていく。							
達成目標	本講の掲げる目標のひとつは大学という場での学問や専門的な研究を始めるために必要とされる様々なアカデミック・スキルズのトレーニングであるため、学生たちは各自 2 回の発表を通して、自分が理解した内容や得た知識を相手に分かりやすく伝達することができるようになる。同時にテーマとして設定されている社会言語学の分野への理解を深めることができる。							
到達目標	本講における発表を通して、学生はレジュメの作成、発表時の注意点、先行文献の使い方、発表後のディスカッションや質疑応答の進め方、質問に対する答え方、自らの意見の整理の仕方などを習慣づけられ、自らできるようになっていく。また専門分野に関する学期末レポートを作成する中で、先行研究の重要性や自らの意見・主張の大切さ、文献を批判的に見る力、文献リストの書き方などを学び、実践していく。また進路という観点からも、編入希望者の中で特に英語学や言語コミュニケーション系の学科に興味を持っている学生は、言語の分野における基礎研究や個別研究の一部を垣間見ることになり、それは自らの編入に対する志望動機の明確化と専門知識の集積につながっていく。							
評価方法	・発表 1 (Textbook <i>Sociolinguistics</i> by Romaine) : 20% ・発表 2 (自己研究テーマ) : 20% ・授業参加・提出物 (Post-presentation discussion, chapter summary) : 15% ・学期末レポート (Term paper) : 25% ・Article Note : 20%							
評価基準	・発表 1, 2 では、発表の進め方、レジュメの出来、先行研究の扱い、文献の示し方、そしてディスカッション時の質問に対する受け答えの良し悪しなどが評価される。 ・授業参加は発表後のディスカッション時に、オーディエンスとして発表者にどのようなフィードバックを返すことができるかに着目し、特に批判的な視点をともなうフィードバックには高い評価が与えられる。 ・提出物は主に chapter summary を指すが、これはボーナスポイントとして、その内容の出来によって評価される。 ・学期末レポート (Term paper) は自己研究テーマについて第二回目の発表内容をもとに、それを自らの論点や問題提起を含めたレポートの体裁にまとめ、提出期限内に提出できたかどうか評価される。 ・Article Note は各エントリーに必要な言語活動がすべて含まれており、設定された回数のエントリー数が達成できている状態で提出期限内に提出できたかどうか評価される。							
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Course overview 研究倫理について	Lecture, discussion	Review the syllabus and start reading ch.1 of the textbook
2	Chapter presentation: 1. The social study of language	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 1): read and write a chapter summary
3	Chapter presentation: 2. The ethnography of speaking and the structure of conversation	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 2): read and write a chapter summary
4	Chapter presentation: 3. Locating variation in speech	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 3): read and write a chapter summary
5	Chapter presentation: 4. Styles, gender, and social class	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 4): read and write a chapter summary
6	Chapter presentation: 5. Bilinguals and bilingualism	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 5): read and write a chapter summary
7	Chapter presentation: 6. Societal multilingualism	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 6): read and write a chapter summary
8	Chapter presentation: 7. Applied sociolinguistics	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	Textbook (chapter 7): read and write a chapter summary
9	自己研究テーマに関する発表 Group 1	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
10	自己研究テーマに関する発表 Group 2	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
11	自己研究テーマに関する発表 Group 3	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
12	自己研究テーマに関する発表 Group 4	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
13	自己研究テーマに関する発表 Group 5	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
14	自己研究テーマに関する発表 Group 6	Students' presentation, post-presentation discussion, lecture	発表内容の復習
15	Course review Reflection Time 学修ポートフォリオ記入	Lecture, discussion Group work	Work on the term paper 学修ポートフォリオの記入

テキスト	Spolsky, B. <i>Sociolinguistics</i> (Oxford U.P.).
参考書	東照二『社会言語学入門』（研究社）
その他 特記事項	「言語学概論」「日本語学」「社会言語学」といった言語学関連の科目を単位取得していることが望ましい。

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	神谷 雅仁
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4215	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	社会言語学、言語バリエーション、言語と年齢、Genderlect、地域方言、外来語使用						
授業の概要	ゼミナール I で基本的なアカデミック・スキルズのトレーニングと社会言語学の分野に関するテーマの絞り込みを終えた学生たちは、ゼミ II で本格的に自己研究を開始する。最終目標であるゼミ論文の作成に向け、学生たちは学期中に計 3 回の発表（2 回の中間報告と 1 回の最終発表）を行いながら、自らの研究を進めていく。毎回の授業は 3~4 名の学生の発表とディスカッションで構成され、最後にひとり一人に対し、担当教員よりフィードバックがなされる。ゼミ論文の最終提出は 1 月下旬。						
達成目標	本講では学びの集大成としてゼミ論文の作成を課しているが、学生たちは自らの自己研究に必要な様々な知識やスキルを専門書の読書や授業内での発表などを通じて修得する。同時に論文のテーマを言語学関連に限定しているため、言語に関する高い専門性を身に着けることができる。						
到達目標	本講を通して学生はゼミ論文作成という大きな目標を掲げ、それを達成するため計画的にそして確実に必要な作業を進めていくことを学ぶ。具体的には先行研究の収集、論文構成の決定（仮説やデータ収集法）、実際のデータ収集、そして実際の執筆作業など論文完成までの長い工程の中をひとつずつのステップを着実に踏み、最終的に自らの計画した目標を達成する。同時にゼミ論文の作成や発表の機会を通し、自らのテーマ設定の仕方や先行研究の重要性について学ぶ一方で、既存の主張や考え方に対して批判的な視点も養われていく。						
評価方法	・ゼミ論文：50% ・発表（3 回）およびディスカッション：30% ・授業参加：20%						
評価基準	・ゼミ論文：提出された論文が、全体の構成を含め一つの論文として成り立っているか。つまり授業内で学んだことが活かされたかたちで論文が完成しているかどうか。 ・発表：自らの研究内容を口頭、そしてレジュメを用いてわかりやすく説明しているか、また研究内容に関して質問された際、過不足なく答えているか、など。 ・授業参加：聴衆としてプレゼンターの発表内容に対してコメントや質問を含めたフィードバックを返しているかどうか、またそのフィードバックの内容が発表者に対して建設的であり、示唆を与えるものであり、また批判的であるかどうか問われる。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Course overview ゼミ論文について、研究倫理について	講義、ディスカッション、SAMPLE 提示	ゼミ論文についてのテーマ決め、ハンドアウト確認
2	ゼミ論文について テーマ決定	講義、ディスカッション、SAMPLE 提示	ハンドアウトの復習
3	第 1 回プレゼンテーション Group 1	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
4	第 1 回プレゼンテーション Group 2	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
5	第 1 回プレゼンテーション Group 3	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	第1回プレゼンテーション Group 4	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
7	第1回プレゼンテーション Group 5	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
8	第1回プレゼンテーション Group 6	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
9	第2回プレゼンテーション Group 1	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
10	第2回プレゼンテーション Group 2	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
11	第2回プレゼンテーション Group 3	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
12	第2回プレゼンテーション Group 4	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
13	第2回プレゼンテーション Group 5	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
14	第2回プレゼンテーション Group 6	発表、ディスカッション、補足説明	発表者は発表の準備、その他の者は自己研究を進める
15	Course review Reflection Time 学修ポートフォリオ作成	講義、ディスカッション	振り返り・総括、自己研究を進める、学修ポートフォリオ

テキスト	テキストは使用せず。各回の発表者が配布する発表用レジュメ、および教員の準備する関連テーマについての配布物を使用する。
参考書	東照二『社会言語学入門』（研究社） 浜田麻里、平尾得子、由比紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）
その他 特記事項	「言語学概論」「日本語学」「社会言語学」といった言語学関連の科目を単位取得していることが望ましい。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	T. Gould	
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4209	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④	
キーワード	Literature, Culture, Linguistics, Second Language Acquisition, Gender, Law, Economics, Environment							
授業の概要	This seminar focuses on developing the academic skills necessary to explore and express issues in the liberal arts. In our first semester, students will learn how to define and research a topic. These topics will form the basis for discussions, presentations, and papers. Through peer exchanges, students will learn a variety of approaches to different topics. The basic ideas and terms necessary to discuss issues, make presentations, and write reports about them will be learned. Students will learn to identify and compare different aspects of their topics, including values, behaviors and beliefs. Also, in pre-zemi, students will learn how to talk about and understand in detail, and compare different cultures in terms of communication, the education system, the workplace, and family life.							
達成目標	Students in this course will: * gain an in-depth understanding of a variety of issues in the liberal arts * improve their reading skills * further develop their writing skills * practice and enhance their ability to participate in focused discussions on literary topics * develop presentation skills *develop critical thinking skills							
到達目標	By the end of this course students should be able to adequately explain and discuss the features of the topics they have explored during the course. Additionally, they should be able to participate in English discussions based on the issues studied. In a discussion of this type, they should be able to use appropriate technical terms, analysis, and be able to relate summary and detail points of their topics.							
評価方法	Class Participation 15%, Mid-Term Report 15%, Final Report 30%, Presentation 1 15%, Presentation 2 25%							
評価基準	Class participation: display a willingness to participate and an understanding of the cultural and literary topics we study in class, engage in discussions, listen respectfully and attentively to other students and to the teacher; Reports: complete reports by the deadline, at an appropriate length, using structural features of writing that we discuss in class; Presentations: make slides with appropriate amount and quality of information, speak in a clear, loud voice, do not rely overly much on notes and show a deep understanding of the topic.							
準備学修の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Introduction to pre-zemi, autonomous learning, fundamentals of the 'zemi.' Research ethics education	Short lecture, pair work discussion	Lecture on independent learning and liberal arts
2	Communication: how we communicate - conversation, nonverbal communication	Short lecture, pair work discussion	Complete short handout and questionnaire about communication
3	Literacy: literary analysis (plot, character, setting, theme, opinion)	Short lecture, pair work discussion	Listen to literacy lecture and read 'Basics of Literary Analysis'
4	Natural Sciences: critical thinking, fundamentals of science, theory	Short lecture, pair work discussion	Read 'How Science Progresses' and short article about 'theories'
5	Short Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Give presentation; group discussion	Complete reaction & question form for peers' presentations
6	Short Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Short discussion and Presentation 1	Complete reaction & question form for peers' presentations

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	Culture: Who studies culture? Different views of learning culture, generalizations and stereotypes	Short lecture, pair work discussion	Read ‘Big-C Little-c’ & ‘Avoiding Stereotypes’
8	Society: Values application, the formation of values in a society; Beginning report writing	Short lecture, pair work discussion, report writing practice	Read ‘Expressing your opinion’ and complete questions / interview
9	‘The Fine Arts’: symbolic arts, material arts ‘The Manual Arts’ History	Short lecture, pair work discussion	Choose a work of art that moves you, print and bring to class
10	Grammar, Logic, Rhetoric (the Trivium)	Short lecture, pair work discussion	Read article about the foundations of liberal arts
11	Curiosity, creativity, and empathy: are these valuable skills in the real world.	Short lecture, pair work discussion, report writing practice	Read article about ‘Curiosity, creativity, and empathy’ & submit topic for Pres 2
12	Framing: the way we look at X makes a difference (fingernail example)	Short lecture, pair work discussion	Read Framing handout & submit rough outline for Pres 2
13	Fallacies: putting critical thinking to use	Short lecture, pair work discussion	Read Article about logical fallacies.
14	Individual Presentation (topic determined in consultation with instructor)	Give presentation 2; group discussion	Complete reaction & question form for peers’ presentations
15	Individual Presentation (topic determined in consultation with instructor) & Reflection Time (writing learning portfolio)	Give presentation 2; group discussion	Complete reaction & question form for peers’ presentations
テキスト		Handouts and articles to be distributed by instructor.	

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	T. Gould
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4209	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-⑤
キーワード	American Literature, American Culture						
授業の 概要	This seminar continues to expand our horizons in the study of American Literature and American Culture. In Seminar 1, students will continue to develop close reading skills by exploring famous American short stories. These stories will provide some of the material we use to generate discussions and research about American Culture. Students will continue to expand their vocabulary of literary ideas and terms necessary to discuss the stories, make presentations, and write reports. Students will learn to identify and compare different aspects of culture, including values, behaviors and beliefs. Also, in Seminar 1, students will continue to practice how to talk about and understand in detail American culture in terms of communication, the education system, the workplace, and family life.						
達成目標	Students in this course will: * gain an in-depth understanding of American Literature and Culture * improve their reading skills * further develop their writing skills * practice and enhance their ability to participate in focused discussions on literary topics * develop presentation skills						
到達目標	By the end of this course students should be able to adequately explain and discuss the features of American culture that we have studied during the course. Additionally, they should be able to participate in a literary discussion based on the short stories we have studied. In a discussion of the type, they should be able to use literary terms, analysis, and be able to relate summary and detail points of particular stories.						
評価方法	Class Participation 15%, Mid-Term Report 15%, Final Report 30%, Presentation 1 15%, Presentation 2 25%						
評価基準	Class participation; display a willingness to participate and an understanding of the cultural and literary topics we study in class, engage in discussions, listen respectfully and attentively to other students and to the teacher; Reports: complete reports by the deadline, at an appropriate length, using structural features of writing that we discuss in class; Presentations: make slides with appropriate amount and quality of information, speak in a clear, loud voice, do not rely overly much on notes and show a deep understanding of the topic.						
準備学修 の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	American literature / culture review lecture; course overview; course guidelines and expectations; reading aloud; Research ethics education	Short lecture, pair work discussion	PRINT: Using forms of address GAS: 'Before You Read' p. 2
2	<i>The Romance of a Busy Broker</i> by O Henry; vocabulary guessing strategies, word morphology	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 7-12 PRINT: Proxemics, Am. Conversation
3	<i>The Ingrate</i> by Paul Laurence Dunbar; leisure time activities, activating background knowl.	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 14 PRINT: Am. small talk
4	Using <i>go</i> and <i>play</i> with various sports, suffixes and context, parts of speech	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 23-28; PRINT: Nonverbal comm.
5	<i>How I Went to the Mines</i> by Bret Hart; understanding figurative vs literal meaning, interrupting politely	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 30 PRINT: Body lang & hidden feelings

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	Presentations	Short discussion and Presentation 1	GAS: Exercises on pages 40-47
7	<i>Paul's Case</i> Willa Cather; survey – finishing sentences, recognizing signal words of cause & effect	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 50 PRINT: Silent message; GAS: Exercises on pages 60-66
8	<i>A Jury of her Peers</i> by Susan Glaspell; history of extreme sports, Americans and fitness vs inactivity and obesity	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 68; PRINT: Leisure time; GAS: Exercises on pages 78-84
9	<i>The Whale Hunt</i> by Herman Melville; finding information on the internet	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 86 PRINT: Interrupting politely
10	American education system II, using an English-English dictionary, recognizing pronoun reference words	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 95-101; PRINT: American educational system
11	<i>Paste</i> by Henry James; using abbreviations and symbols in note-taking, paraphrasing sent.	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 104, PRINT: phil. of Am ed.
12	Enrollment in American schools, American higher education, finding information in complex schedules	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 116-122; PRINT: Organization of American schools
13	<i>The Lost Phoebe</i> by Theodore Dreiser; problems in American Education, techniques for paraphrasing	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 124 GAS: Exercises on pages 91-96; PRINT: Earning a living
14	Presentations	Give presentation 2; Group discussion	Prepare discussion questions, review outline for present's
15	Presentations; Reflection Time (writing learning portfolio)	Give presentation 2; Group discussion	Prepare discussion questions, review outline for present's
テキスト	Handouts and digital documents to be provided by instructor.		

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	T. Gould
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4209	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-⑤
キーワード	American Literature, American Culture						
授業の概要	This seminar continues to expand our horizons in the study of American Literature and American Culture. In Seminar 2, students will continue to develop close reading skills by exploring famous American short stories. These stories will provide some of the material we use to generate discussions and research about American Culture. Students will continue to expand their vocabulary of literary ideas and terms necessary to discuss the stories, make presentations, and write reports. Students will learn to identify and compare different aspects of culture, including values, behaviors and beliefs. Also, in Seminar 2, students will continue to practice how to talk about and understand in detail American culture in terms of communication, the education system, the workplace, and family life.						
達成目標	Students in this course will: * gain an in-depth understanding of American Literature and Culture * improve their reading skills * further develop their writing skills * practice and enhance their ability to participate in focused discussions on literary topics * develop presentation skills						
到達目標	By the end of this course students should be able to adequately explain and discuss the features of American culture that we have studied during the course. Additionally, they should be able to participate in a literary discussion based on the short stories we have studied. In a discussion of the type, they should be able to use literary terms, analysis, and be able to relate summary and detail points of particular stories.						
評価方法	Class Participation 15%, Mid-Term Report 15%, Final Report 30%, Presentation 1 15%, Presentation 2 25%						
評価基準	Class participation; display a willingness to participate and an understanding of the cultural and literary topics we study in class, engage in discussions, listen respectfully and attentively to other students and to the teacher; Reports: complete reports by the deadline, at an appropriate length, using structural features of writing that we discuss in class; Presentations: make slides with appropriate amount and quality of information, speak in a clear, loud voice, do not rely overly much on notes and show a deep understanding of the topic.						
準備学修の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	American literature / culture review lecture; course overview; course guidelines and expectations; reading aloud; Research ethics education	Short lecture, pair work discussion	PRINT: Family life in US GAS: 'Before You Read' p. 2
2	<i>Breakfast</i> by John Steinbeck; values application, exchange student experience; Seminar thesis	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 7-14 PRINT: Traditional fam. struct
3	<i>A Day's Wait</i> by Ernest Hemingway; earning a living, the American workplace	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 16 PRINT: Changing Am family
4	<i>April Showers</i> by Edith Wharton; occupations, statistics, vocabulary development	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 22-28; topic for thesis
5	<i>Rip Van Winkle</i> by Washington Irving; recognizing and using different word forms	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 48 PRINT: Debate cont. issues

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	Presentations	Short discussion and Presentation 1	GAS: Exercises on pages 62-68, discuss Seminar thesis topic
7	<i>The Wives of the Dead</i> by Nathaniel Hawthorne; scanning a reading and news article for specific info; seminar thesis	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 70 PRINT: Statue of Liberty; topic for thesis
8	<i>Nine Needles</i> by James Thurber; filling in an outline of a reading, occupations: past and present	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 79-88; PRINT: Old Glory (flag); outline of thesis
9	<i>A Mystery of Heroism</i> by Stephen Crane; industrialization in the U.S, avoiding sexist language	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 106 PRINT: Mt. Rushmore & Bald Eagle
10	Predicting syllable stress, white collar, blue collar, outlining	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 118-124; PRINT: Santa Claus / EB
11	<i>A Visit of Charity</i> by Eudora Welty; participating in an American group discussion	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 126 PRINT: Halloween / Valentine's
12	Interpreting information on a graph, making teamwork work, family life in the US, writing descriptive paragraph	Short lecture, pair work discussion	GAS: Exercises on pages 136-142; PRINT: Good Luck / Bad Luck; rough draft of thesis
13	<i>The Black Ball</i> by Ralph Ellison; recognizing synonyms, evaluating credibility, skimming for main ideas	Short lecture, pair work discussion	GAS: 'Before You Read' p. 144 GAS: Exercises on pages 157-163; PRINT: Wedding superst.
14	Individual Presentations	Give presentation 2; Group discussion	Prepare discussion questions, peer review pres.
15	Individual Presentations; Reflection Time (writing learning portfolio)	Give presentation 2; Group discussion	Prepare discussion questions, peer review pres., Final draft of thesis
テキスト	Handouts and digital documents to be distributed by instructor.		

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	C. Oliver
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4205	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-④
キーワード	multiculturalism, immigration, ethnicity, identity, vocabulary, presentation skills						
授業の 概要	In this course, students will read about and discuss various topics related to multiculturalism—such as immigration, ethnicity, discrimination, and cultural identity. While doing so, students will build up their English vocabulary, improve their ability to discuss complex cultural and social issues in English, and develop their basic research skills. Each student will do three presentations in English during the semester.						
達成目標	Students will learn about “multiculturalism” in various countries, improve their ability to understand and discuss social and cultural issues in English, and develop basic research and presentation skills.						
到達目標	• appropriately use key English vocabulary from readings related to social and cultural issues; • summarize important information from readings about social and cultural issues; • express one’s own views on multiculturalism-related issues in the world today; • appropriately use information from books or other research sources; • organize information from research into an outline for a presentation; • deliver a short, well-organized presentation with good delivery.						
評価方法	Participation (35%), Homework (35%), Presentations (30%).						
評価基準	• Participation: active involvement in discussions and other everyday class activities, effort to regularly use English, appropriate use of vocabulary from readings, summarizing of information, expression of own views; • Homework: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, appropriate use of vocabulary from readings, summarizing of information, expression of own views, appropriate use of information from research sources; • Presentations: appropriate use of vocabulary, summarizing of information, expression of own views, organization (including “preview” in Introduction) of spoken presentation and printed outline, appropriate use of research sources, good delivery (including voice, eye contact, etc.).						
準備学修 の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Orientation to the course. Perspectives on multiculturalism.	explanation by teacher, small-group work	Read the course syllabus. Review handouts.
2	Mini-Research Project about one country. Presentation basics #1 (basic organization, delivery, visuals).	lecture, small-group discussion	Do light research, prepare homework.
3	Presentation #1 (half of students).	presentations, small-group discussion	Prepare presentation.
4	Presentation #2 (half of students).	presentations, small-group discussion	Prepare preparation.
5	Explanation of Presentation #2. Presentation basics #2 (“preview” of presentation content, etc.). Research basics / ethics (using sources, avoiding plagiarism.)	lecture, small-group work, in-class writing	Review handouts distributed in class today; start preparing for Presentation #2.

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	Case study: reading and discussion.	small-group discussion, lecture	Read case study material. Prepare Fact Sheet (Canada / Australia).
7	Readings and discussion. Presentation #2: Settler-states (Canada, Australia, Brazil, Mexico).	small-group discussion, presentations	Prepare presentation. Read handout, write summary. Prepare Fact Sheet (Sweden / France.)
8	Readings and discussion. Presentation #2: Europe zone (England, France, Sweden, Turkey). Explanation of Presentation #3.	small-group discussion, presentations	Prepare presentation. Read handout, write summary. Prepare Fact Sheet (Malaysia / Indonesia.)
9	Readings and discussion. Presentation #2: Asian cases (Malaysia, Indonesia, India, Philippines).	small-group discussion, presentations	Prepare presentation. Read handout, write summary. Prepare Fact Sheet (Switzerland / South Africa.)
10	Readings and discussion. Presentation #2: Other complicated cases (Switzerland, South Africa, Israel, Egypt).	small-group discussion, presentations	Prepare presentation. Read handout, write summary.
11	Preparation for Presentation #3.	individual guidance from teacher, in-class writing	Decide topic for presentation. Do research for presentation. Prepare outline.
12	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation and handout.
13	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation and handout.
14	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation and handout.
15	Reflection Time (portfolio). Remaining presentations, if any. Recap of semester. Overview of Seminar I and Seminar II.	small-group work, in-class writing, lecture	Review materials studied to date.

テキスト	Handouts (mainly news articles) will be provided by the teacher. To prepare for presentations, students will find books or other materials to read.
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press). <i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i> (Sophia University Junior College Division).
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	C. Oliver
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4205	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-⑤
キーワード	multiculturalism, research skills, presentation						
授業の 概要	Building upon what students learned in the Pre-seminar, in this course students will investigate various key issues related to multiculturalism. These may include, for instance, illegal immigration, ethnic identity, religious intolerance, racism, language laws, and multicultural education. Through independent study and presentations during the semester, students will develop their research and academic presentation skills.						
達成目標	Students will learn to summarize, organize, present, and ask questions about information that they have found in books and other sources. They will also improve their ability to discuss their own study / career interests.						
到達目標	By the end of the semester, students will be able to summarize both general and specific information about an issue and about that issue in a specific country; ask good questions to guide their own future study of an issue; prepare a well-organized outline for a presentation; do a well-organized 7-10 minute presentation with good delivery; discuss their own study / career interests in relation to specific universities / companies that they would like to enter.						
評価方法	Participation (45%), Written work, including presentation handouts (20%), Presentations (35%).						
評価基準	- Participation: active involvement in everyday discussions and other class activities; effort to regularly use English; shows improvement in ability to discuss study / career interests; - Written work: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, summarizes both general and focused information, well organized, includes appropriate study questions; - Presentations: appropriate topic, appropriate length, summarize both general and specific information, well organized (following outline and including a preview), include appropriate study questions, demonstrate good delivery (eye contact, voice, etc.).						
準備学修 の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Orientation: perspectives on multiculturalism. Explanation of Presentation #1 and #2.	explanation by teacher, small-group discussion	Read syllabus carefully. Review presentation explanation.
2	Talking / writing about one's study / career interests (with follow-up on class 7).	lecture, small-group discussion	Review class notes, begin preparing for presentation.
3	Presentation preparation. Review: research basics / ethics.	lecture, small-group discussion	Review class notes. Write presentation Topic Sheet.
4	Presentation #1. Topics: (1) Immigration and (2) Identity.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
5	Presentation #1. Topics: (3) Religion and (4) Attitudes / Ideologies.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
6	Presentation #1. Topics: (5) Policies / Laws and (6) Social Action and Organizations.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
7	Asking good questions for research. Discussing one's study / career interests (follow-up from class 2). Explanation of Presentation #3.	lecture, small-group discussion, individual guidance from teacher	Review class notes, prepare written statement of study / career interests.

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	Presentation #2. Topics: (1) Immigration, (2) Identity, and (3) Religion.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
9	Presentation #2. Topics: (4) Attitudes / Ideologies, (5) Policies / Laws, and (6) Social Action and Organizations.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation, including handout.
10	Research basics / ethics: using information from sources (avoiding plagiarism). Discussion of research progress for Presentation #3.	lecture, small-group work	Review class notes. Write Reading Report (on material related to Presentation #3).
11	Presentation preparation. Discuss research progress for Presentation #3.	small-group discussion, individual guidance	Write presentation Topic Sheet. Write Reading Report (on material related to Presentation #3).
12	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
13	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
14	Presentation #3: Topic and country decided by each student.	presentations, small-group discussion	Prepare presentation content, handout / outline.
15	Reflection Time (portfolio). Recap of Spring semester, planning for Fall semester (including Seminar II Research Project Topic sheet).	explanation by teacher, small-group discussion	Review class notes, handouts.

テキスト	None. To prepare for presentations, students will select their own materials to read.
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	C. Oliver
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4205	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-⑤
キーワード	multiculturalism, independent research project, presentation, report						
授業の 概要	In this course, each student will do an independent research project on a topic related to multiculturalism. For this, students will choose their own topic, think of their own research question, and find related books and other materials to read. In addition to two short presentations, each student will also do a longer final presentation and write a report about her research findings.						
達成目標	Students will develop their ability to do an independent research project and to discuss their study interests.						
到達目標	By the end of this course, students should be able to: • formulate a suitable question for an independent research project; • conduct reading-based research focused on that research question; • summarize key information related to the research topic; • describe and analyze “data” related to the research topic; • organize information in a manner suited to a research report; • explain one’s study interests in relation to ideas and information learned from books or other materials.						
評価方法	Participation (25%), Homework (25%), Presentations (25%), Report (25%).						
評価基準	• Participation: active involvement in discussions and other everyday class activities, effort to regularly use English, effort to explain one’s study interests in relation to ideas and information learned from books or other materials; • Homework: completed thoroughly and according to instructions, submitted on time, summarizes key information related to the research topic; • Presentations and Report: suitability of research question; evidence of research focused on the research question; summarizing of information related to the research topic; description and analysis of “data” related to the research topic; organization of information.						
準備学修 の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Overview of Fall semester. Discuss Research Project Topic prepared by each student. Explanation of presentation #1.	explanation by teacher, small-group discussion	Prepare “Research Project Topic” document in advance.
2	Talking / writing about one’s study interests (writing a statement of purpose, or SOP).	explanation by teacher, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare SOP worksheet.
3	Short presentation #1: your independent research topic. Explanation of Presentation #2.	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
4	Short presentation #1: your independent research topic.	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
5	Short presentation #1: your independent research topic.	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	Short presentation #2: describing and analyzing “data.”	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
7	Short presentation #2: describing and analyzing “data.”	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
8	Short presentation #2: describing and analyzing “data.” Explanation of final presentation.	presentations, small-group discussion	Write weekly reading report. Prepare presentation.
9	Organizing your final Seminar report. Review research basics / ethics: avoiding plagiarism.	lecture, small-group work	Review handouts provided in class.
10	Writing an Introduction (including “thesis statement”) and Conclusion.	lecture, small-group work	Review handouts provided in class.
11	Prepare for final presentation, final Seminar report	individual guidance from teacher	Write draft of presentation outline.
12	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
13	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
14	Final presentation: your research findings	presentations, whole-class discussion	Prepare presentation, handout.
15	Reflection Time (portfolio), recap of semester.	small-group discussion, in-class writing	Finish writing final Seminar report.

テキスト	None. For their own independent research projects, students will choose their own books and other materials to read.
参考書	A. Rattansi. <i>Multiculturalism: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press).
その他 特記事項	All work for this course is to be done in English. Homework must be submitted at the very beginning of class.

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	杉村 美佳
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4220	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	国際教育学研究、国際教育協力、開発教育、参加型学習の歴史と現状、総合学習						
授業の概要	途上国への国際教育協力の状況を検討した上で、先進国における参加型学習の歴史や現状を理解し、途上国の問題解決に参加できる能力と態度を養う教育のあり方を考察する。前半は、テキストに基づいてグループ研究発表を行い、国際教育学研究の基礎理論を学ぶ。後半では、英文原書の講読を進め、途上国の女子教育について理解を深めるとともに、2 年生のゼミ論文の発表に参加し、論文の書き方を学ぶ。						
達成目標	国際教育協力や開発教育のあり方、参加型学習の歴史や現状を理解するとともに、教育学の英文原書を読む力を身につける。さらに国際的視点から日本の教育政策や教育実践などの方向性を探ることを通して、国際教育学研究の基礎的な理論と方法論を習得する。						
到達目標	①国際教育協力や開発教育のあり方、参加型学習の歴史や現状に関する知識を習得し、国際的視点から教育事象を論理的、批判的に分析し、考察することができる。 ②テキストの内容を整理してレジュメを作成し、相手に効果的に伝わる発表や議論をすることができる。 ③英文講読を通して教育学の専門用語を学び、途上国の女子教育の現状と課題について理解し、教育学の英文原書を読む力を身につける。						
評価方法	討論への参画 (20%)、研究発表 (30%)、英文講読 (20%)、リアクションペーパー (20%)、ブックレポート (10%)						
評価基準	討論への参画：研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 研究発表：テキストの内容を的確に整理してレジュメを作成し、効果的な発表を行っているか。 討論の論点を提示しているか。 英文講読：英文原書の内容を的確に把握し、途上国の女子教育の現状と課題を理解できているか。 リアクションペーパー：論題について授業内容をふまえて論理的に考察できているか。 ブックレポート：内容を的確に要約し、国際教育学の視点から意見を論理的、批判的に論述できているか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	国際教育学の理論と研究倫理	講義、ディスカッション	テキスト序章の講読 発表・ディスカッションの準備
2	援助と開発の歴史	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 1 章の要約 発表・ディスカッションの準備
3	開発プロジェクトのタイプ	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 3 章の要約 発表・ディスカッションの準備
4	参加型開発とは	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 4 章の要約 発表・ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
5	日本の NGO と参加型開発	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 5 章の要約 発表・ディスカッションの準備
6	日本の開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 6 章の要約 発表・ディスカッションの準備
7	開発教育ワークショップ	ワークショップ・解説・リアクションペーパー	配布資料の講読 発表・ディスカッションの準備
8	総合学習と ESD	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 7 章の要約 発表・ディスカッションの準備
9	参加型学習の歴史的系譜	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 8 章の要約 発表・ディスカッションの準備
10	これからの国際協力と開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト終章の要約 発表の準備
11	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.1-3 の翻訳 発表の準備
12	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.4-6 の翻訳 発表の準備
13	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.7-10 の翻訳 発表の準備
14	<i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト pp.11-13 の翻訳 発表の準備
15	2 年生ゼミ論文発表会、リフレクションタイム	学修成果の振り返り ポートフォリオ記入	学修ポートフォリオ記入 ブックレポートの作成
テキスト	田中治彦『国際協力と開発教育—「援助」の近未来を探る』（明石書店） King, Elizabeth M. <i>Women's Education in Developing Countries</i> (World Bank).		
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）、 菅野琴・西村幹子・長岡智寿子編著『ジェンダーと国際教育開発 —課題と挑戦—』（福村出版）		
その他 特記事項	発表の 1 週間前までに教員にレジメを提出し、指導を受けること。 ゼミ生には討議への活発な参加を求める。		

科目名	SES200: ゼミナールⅠ					担当教員	杉村 美佳
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4220	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	国際教育学研究、国際教育協力、開発教育、参加型学習の歴史と現状、総合学習						
授業の概要	開発教育の理念と歴史、地球的課題と開発教育、今後の開発教育の展開について専門的に学ぶ。具体的には、日英テキストの講読を通して、国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどをテーマとした開発教育の方法やカリキュラムのあり方を考察する。また、実際に開発教育ワークショップに参加し、開発教育の実践に必要な知識や技術を習得する。最後に各自自由にゼミ論文のテーマを設定し、構想発表を行う。						
達成目標	国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどの地球的諸課題について理解を深めた上で、これらをテーマとした開発教育の実践に必要な技術を習得する。またゼミ論文のテーマを設定して文献を収集し、論点を整理して論文の構想を練り上げる力を習得する。						
到達目標	①国際協力、環境、多文化共生、子どもの権利、ジェンダーなどの地球的諸課題について、教育を通して問題を解決するための方法を考察することができる。 ②開発教育のワークショップへの参加を通して実践に必要な知識や技術を習得する。 ③ゼミ論文のテーマを設定して先行研究を整理し、研究課題や研究方法などの構想を適切にまとめることができる。						
評価方法	討論への参画 (20%)、テキスト発表 (30%)、ゼミ論文の構想発表 (20%)、リアクションペーパー (20%)、ブックレポート (10%)						
評価基準	討論への参画：研究発表や論点に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 研究発表：テキストの内容を的確に整理して考察を加えたレジュメを作成し、効果的な発表を行っているか。英文原書の内容を的確に理解できているか。 ゼミ論文の構想発表：ゼミ論文のテーマを適切に設定して先行研究を整理し、研究課題や方法などの構想を論理的にまとめているか。 リアクションペーパー：論題について発表内容をふまえて論理的に考察できているか。 レポート：文献を適切に要約して論点を整理し、自分の意見を論理的に述べているか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	開発教育の内容・方法・カリキュラムと研究倫理	講義・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト第 2 章の要約 発表・ディスカッションの準備
2	ヨーロッパとアジアにおける開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 3 章の要約 発表・ディスカッションの準備
3	ミレニアム開発目標	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 4 章の要約 発表・ディスカッションの準備
4	日本と世界の貧困問題	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第 5 章の要約 発表・ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
5	環境問題と開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第6章の要約 発表・ディスカッションの準備
6	多文化共生社会の実現に向けて	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第8章の要約 発表・ディスカッションの準備
7	子供の権利条約	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第9章の要約 発表・ディスカッションの準備
8	開発教育ワークショップ	ワークショップ リアクションペーパー	配布資料の講読 発表・ディスカッションの準備
9	ジェンダーと開発	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第10章の要約 発表・ディスカッションの準備
10	地域からの開発教育	発表・ディスカッション・解説・リアクションペーパー	テキスト第12章の要約 発表の準備
11	ゼミ論文構想発表（1）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト pp.285-287 の翻訳 発表の準備
12	ゼミ論文構想発表（2）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト pp.291-293 の翻訳 発表の準備
13	ゼミ論文構想発表（3）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト pp.294-296 の翻訳 発表の準備
14	ゼミ論文構想発表（4）、 <i>Women's Education in Developing Countries</i> の講読	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	テキスト pp.297-299 の翻訳 発表の準備
15	ゼミ論文構想発表（5）、リフレクションタイム	発表・ディスカッション 学修成果の振り返り	学修ポートフォリオ記入 ブックレポートの提出

テキスト	田中治彦『開発教育―持続可能な世界のために―』（学文社） King, Elizabeth M. <i>Women's Education in Developing Countries</i> (World Bank).
参考書	田中治彦・杉村美紀編『多文化共生社会における ESD・市民教育』（上智大学出版） 小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）
その他 特記事項	発表の1週間前までに教員にレジュメを提出し、指導を受けること。 ゼミ生には討議への活発な参加を求める。

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	杉村 美佳	
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4220	オフィスアワー	P.16 を参照のこと	
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要						学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。						4-⑤
キーワード	先行研究の検討、研究課題・研究方法の設定、文献研究・調査、ゼミ論文の作成、発表							
授業の概要	ブレ・ゼミナールおよびゼミナール I で学んだ国際教育学研究の基礎的な理論と手法を用いて実際にゼミナール論文を作成する。毎回発表者が研究成果を報告し、ゼミ生全員で課題を討議する。また、1 年次生と高校生を対象に開発教育のワークショップを実践する。							
達成目標	国際教育学研究の基礎的な理論と研究手法を用いて教育事象を論理的、批判的に考察し、ゼミナール論文を作成、完成させることを目標とする。また、研究成果の報告ではお互いの課題を見出して討議し、効果的に発表する力を培う。さらに開発教育の実践を通して基礎的な指導技術を習得する。							
到達目標	①先行研究の検討、研究課題の設定、文献研究や各種調査などを通して論文作成に必要な知識、技法を習得し、研究論文の形に仕上げることができる。 ②研究内容を論理的に論述し、独自の考察を加え、説得力のある発表ができる。 ③毎回発表者が研究成果を報告し、ゼミ生全員で課題を討議することを通して、教育事象を論理的、批判的に分析し、考察できるようになる。 ④開発教育の実践を通して基礎的な指導技術を習得する。							
評価方法	討論への参画（10%）、リアクションペーパー（20%）、研究発表（30%）、ゼミ論文（40%）							
評価基準	討論への参画：研究発表に対し、課題を論理的、批判的に討議できているか。 リアクションペーパー：論題について発表内容をふまえて論理的に考察できているか。 研究発表：研究内容を論理的に論述、考察し、説得力のある発表になっているか。 ゼミ論文：先行研究の検討、研究課題の設定、研究方法、内容が論文の技法に即していて適切であるか。書式や提出期限を守っているか。							
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ゼミ論文の書き方、研究倫理	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
2	ゼミ論文中間発表と討論 (1)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
3	ゼミ論文中間発表と討論 (2)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
4	ゼミ論文中間発表と討論 (3)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
5	ゼミ論文中間発表と討論 (4)	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	ゼミ論文中間発表と討論（5）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
7	ゼミ論文中間発表と討論（6）	発表・ディスカッション 学修成果の振り返り	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
8	開発教育ワークショップの準備	ディスカッション・リアクションペーパー	解説の要約、教材の準備
9	開発教育ワークショップの実践	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	教材の準備、論文の作成
10	ゼミ論文発表と討論（1）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
11	ゼミ論文発表と討論（2）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
12	ゼミ論文発表と討論（3）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
13	ゼミ論文発表と討論（4）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
14	ゼミ論文発表と討論（5）	発表・ディスカッション・リアクションペーパー	発表の準備、論文の作成 ディスカッションの準備
15	ゼミ論文発表会、リフレクションタイム	発表・ディスカッション 学修成果の振り返り	学修ポートフォリオ記入 発表の準備、論文の作成

テキスト	特になし。適宜、プレ・ゼミナールおよびゼミナールⅠで使用したテキストを参照する。
参考書	小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書） 『杉村ゼミ論文集』
その他 特記事項	ゼミ生には討議への活発な参加を求める。発表の1週間前までに原稿を教員に提出し、添削を受けること。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	狩野 晶子
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4203	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④, 5-②
キーワード	コミュニケーションな言語教育、言語習得、児童英語教育、応用言語学						
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、言葉の教育、習得、運用の観点から言葉と人との関わりを扱う。プレゼミでは各自が自ら興味のあるテーマで研究を進める土台づくりとなる知識を応用言語学の観点から学び、そこから幅広く発展する分野の知識と関心を深め、2 年次のゼミナールへの土台となる力を養う。						
達成目標	興味関心のあるテーマについて文献を読み、文献資料に基づいて発表を行い、質疑応答ができるようになる。さまざまな関連テーマの内容について読み、調べ、発表することを通して言語学と言語習得の基礎について学ぶ。発表を通して効果的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。						
到達目標	グループや個人での発表を通して、発表準備の手順を学び、聞き手にわかりやすく伝わる発表に不可欠な要素について体得する。資料を読み、理解を深め、内容をアウトラインとしてまとめレジュメを作成する過程で専門知識を深める。他の学生の発表を聞き的確な質問やコメントができるよう、聞く際のポイントを学び、実践する。						
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢（30%）、②リアクションペーパーおよび相互フィードバック（30%）、③グループおよび個人プレゼンテーション（20%）、④期末課題（20%）。						
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。 ②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすくて確かな表現で文章化できる。 ③特定のテーマについて資料や文献を調べ、聞き手が内容を理解しやすい構成とヴィジュアル資料を作成し、興味・関心を共有できるように準備し発表、質疑応答を行える。 ④テーマに沿って調べた内容やテキストの要約を読み手を意識したわかりやすくて確かな表現で文章化できる。さらに、発表等に活用することを念頭に置いて、所定の書式に沿って資料として作成できる。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス 発表グループと分担決め	講義、 グループワーク	テキスト①通読
2	テキストの読み進め方、具体的な発表の手法、研究倫理	グループワーク	テキスト①通読 発表準備
3	テキストをもとに発表・ディスカッション (1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
4	テキストをもとに発表・ディスカッション (2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	テキストをもとに発表・ディスカッション (3)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	テキストをもとに発表・ディスカッション (4)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	テキストの総括、ブックレポートについて発表の進め方の指導	講義、講評 ディスカッション	相互フィードバック準備 リアクションペーパー
8	ブックレポート発表・ディスカッション（1）	学生発表、 相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
9	ブックレポート発表・ディスカッション（2）	学生発表、 相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
10	ブックレポート発表・ディスカッション（3）	学生発表、 相互評価、講評	ブックレポート発表準備 リアクションペーパー
11	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を考える	グループワーク、 講義、発表、講評	ブックリスト提出準備 リアクションペーパー
12	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野・ブックリストの発表（1）	グループワーク、 講義、発表、講評	発表準備、ブックリスト リアクションペーパー
13	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野・ブックリストの発表（2）	グループワーク、 講義、発表、講評	発表準備、ブックリスト リアクションペーパー
14	次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野・ブックリストの発表（3）	グループワーク、 講義、発表、講評	発表準備、ブックリスト リアクションペーパー
15	振り返りとまとめ［リフレクション・タイム（学修ポートフォリオ作成）］	振り返り活動 教員による個別面談	総括（レポートとして提出）

テキスト	今井 むつみ・針生 悦子『言葉をおぼえるしくみ：母語から外国語まで』（ちくま書房）
参考書	上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーション型英語教育を考える：日本の教育現場に役立つ理論と実践』（アルク）
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスラーニング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	狩野 晶子
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4203	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-④, 5-②
キーワード	コミュニケーションな言語教育、言語習得、児童英語教育、応用言語学						
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、言葉の教育、習得、運用の観点から言葉と人との関わりを扱う。プレゼミで学んだ基本的な知識をベースに、卒業課題となるゼミ論文作成へつながる個人のテーマを決め、内容を絞り込み深めてゆき、ゼミ II での発表、論文作成に向け準備を整える。						
達成目標	各自の研究テーマについて研究調査の基本的な進め方を体得する。文献の探し方、引用の仕方、研究倫理を学び、資料を読み、理解し、内容について要旨をまとめる。発表を通じて効果的なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。発表、ディスカッション、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。						
到達目標	各自が興味関心のあるテーマについて文献を調べ、聞き手がその内容を理解し関心を共有できる発表と質疑応答を行う。発表者は担当箇所について十分に理解を深め、さらに他の文献・資料にもあたりレジュメを作成し発表準備を行う。聞く側は発表に基づいた的確な質問、コメントができるよう、聞く際のポイントを学び、実践する。発表の内容をもとにディスカッションを行う手法を学び、実践する。						
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢 (30%)、②リアクションペーパー及びフィードバック (30%)、③プレゼンテーション (20%)、④期末課題 (20%)						
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすくて的確な表現で文章化できる。③特定のテーマについて資料や文献を調べ、聞き手が内容を理解しやすい構成とヴィジュアル資料を作成し、興味・関心を共有できるように準備し発表し、質疑応答を行える。④ゼミ論の中間報告として、テーマに沿って調べた内容やテキストの要約を読み手を意識したわかりやすくて的確な表現で文章化できる。さらに、発表等に活用することを念頭に置いて、所定の書式に沿った資料として作成できる。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	プレゼミ概観 各自が興味のあるテーマを考える	グループワーク	プレゼミテキスト復習 テーマ予備調査
2	各自が興味のあるテーマを調べ、深める 文献の探し方、研究倫理指導	グループワーク 適宜図書館等を利用	テーマ探し、文献検索 ブックリスト作成
3	プレゼンテーションスキルの具体的指導	講義、実践指導 学生フィードバック	ポイント要約 発表準備
4	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (1)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (2)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (3)	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
7	学生によるプレゼンテーション・ディスカッション（4）	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
8	プレゼンテーションの反省 各自のテーマの方向性の検討	省察、相互評価、ディスカッション	リアクションペーパー
9	各自のテーマを深め、調べる	個別活動、面談 （教員による個別指導）	各自テーマを調べる
10	各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション（1）	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション（2）	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
12	各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション（3）	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
13	各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション（4）	学生発表、相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
14	テキスト発表準備［夏合宿にて発表］	ディスカッション、グループワーク	テキストを読み、アウトライン作成準備
15	ゼミⅠの総括「リフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）」	省察、相互評価、ディスカッション	テーマに沿って発表アウトライン作成

テキスト	なし。プレゼミにて指定したテキストを継続使用。
参考書	上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーション型英語教育を考える：日本の教育現場に役立つ理論と実践』（アルク）
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスラーニング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	狩野 晶子
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4203	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4, 5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-④, 5-②
キーワード	コミュニケーションな言語教育、言語習得、児童英語教育、応用言語学						
授業の概要	「言葉をおぼえる、言葉をならう、言葉を教えるとは」を大テーマに、プレゼミとゼミ I で学んだ知識をベースに、各自が設定したテーマを調べ、発表の過程を通して内容をまとめ、卒業課題となるゼミ論文を完成させる。研究内容を学術論文の体裁に従ってまとめる具体的方法と、研究倫理、効果的なプレゼンテーションのスキルを併せて学ぶ。						
達成目標	各自の研究テーマについて研究調査を進め、学術論文としての体裁を整えたゼミ論文を作成する。そのゼミ論文のアウトラインをゼミ最終発表として、パワーポイントスライドショー形式で他のゼミ生の前で発表する。発表、ディスカッション、グループワークを通して自律的、主体的に学ぶ姿勢を養う。						
到達目標	各自の研究テーマに沿って学びを深め、構成や書式などの基本的な規定を守ったうえで、他のゼミ生が内容を理解し関心を共有できるようなゼミ論文を書く。最終発表としてゼミ論文の概要を短く適切にまとめ、ヴィジュアル資料を活用し、聞く者にわかりやすく発表する。他者の発表を聞き的確な質問、コメントをする力を養う。今後の進路に向け、自律的、主体的学習者としての意識を持ち、実践する。						
評価方法	①授業時の活動への参加姿勢 (30%)、②リアクションペーパー及びフィードバック (20%)、③プレゼンテーション (20%)、④期末課題 (30%)。						
評価基準	①事前に必要な準備や下調べを行ったうえで授業に参加し、ディスカッション等に積極的に関わり、具体的かつ建設的な意見を出して討論への貢献ができる。②授業で得た知見をもとに自らの意見や観点を、読み手を意識したわかりやすくて確かな表現で文章化できる。③ゼミ論文の内容について聞き手が理解しやすい構成とヴィジュアル資料を活用した準備と発表、質疑応答を行える。④ゼミ論文として十分な文献や資料を調べ、所定の構成および書式に則った文章を作成できる。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	論文作成に向け進捗状況と課題点の確認	グループワーク 教員との個別相談	プレゼミテキスト復習 テーマアウトライン準備
2	論文作成に向け各自のテーマについてグループディスカッション、コメント	グループワーク	文献研究 テーマアウトライン準備
3	論文作成に向け各自のテーマに従って準備、研究倫理	個別活動 教員との個別相談	文献研究 テーマ概要発表準備
4	論文作成に向け各自のテーマの概要を発表、ディスカッション	学生発表、ディスカッション、講評	発表準備 リアクションペーパー
5	論文作成に向け各自のテーマの概要を発表、ディスカッション	学生発表、ディスカッション、講評	発表準備 リアクションペーパー
6	最終プレゼンテーション (論文報告) 準備 (1)	個別活動、面談 (教員による個別指導)	発表準備 リアクションペーパー
7	最終プレゼンテーション (論文報告) 準備 (2)	個別活動、面談 (教員による個別指導)	発表準備 リアクションペーパー

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	最終プレゼンテーション（論文報告）準備（3）	個別活動、面談 （教員による個別指導）	発表準備 リアクションペーパー
9	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（1）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
10	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（2）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
11	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（3）	学生発表	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（3）
12	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（4）	学生発表、 相互評価、講評	発表準備 リアクションペーパー
13	学生による最終プレゼンテーション・論文作成（5）	学生発表、 相互評価、講評	論文初校提出準備
14	論文初校提出：相互校正	相互校正、相互評価	論文初校修正、最終稿へ向け 修正方針をまとめる
15	ゼミ総括「リフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）」	振り返り活動、ディス カッション	論文初校修正方針の確認、論 文最終稿提出準備

テキスト	なし。プレゼミにて指定したテキストを継続使用。
参考書	①上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーション型英語教育を考える：日本の教育現場に役立つ理論と実践』（アルク） ②白井恭弘『ことばの力学—応用言語学への招待』（岩波書店）
その他 特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスラーニング活動に参加し、理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。

科目名	SES150: プレ・ゼミナール					担当教員	岩崎 明子
開講期	秋	開講時限	水 4 限	研究室	4213	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	1 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-④
キーワード	環境、教育、水問題、貧困、戦争、平和						
授業の概要	この授業ではグローバル・リテラシーの能力を言語面と国際問題（グローバル問題）に焦点を当てて学習していく。グローバル問題は、各国の人々が地球全体の問題として緊急に解決しなければならない問題であり、グローバル問題を理解するために、様々な事柄に関連する背景知識を教養として知っていく。また、問題意識を高める記事の読書は英文を含めて行っていくので、授業では英語で聞く読む技能を磨きながら興味ある研究課題を探し、調べ、発表する方法で学習を進めていく。						
達成目標	グローバル問題を題材にしながら、問題意識を高め、研究課題の調査・まとめ・発表の共同研究を行う力をつける。						
到達目標	①テキストに基づき、グローバル問題を調べ、発表し、質疑応答やディスカッションを通して、クラスで問題を考察する力をつける。 ②英語文献を読み、ニュースを聴く力をつけるとともに関連英語の語彙を増やす。 ③共同研究を通し、資料収集方法や研究倫理、文書のまとめ方、発表方法を学ぶ。						
評価方法	討論へ参画、コメントシート（30%）、英文講読（25%）、研究発表（20%）[2 回]、中間レポート（10%）、期末レポートと発表（15%）						
評価基準	* 討論への参画：研究発表に対し、課題への問題意識を持ち、積極的に批判的に討議できているか。また、各回のコメントシート CS（授業の準備、授業を通しての考察）が論理的に述べられているか。 * 英語文献の講読：英語文献の内容を的確に把握し、語彙を習得できたか。 * 研究発表：(1) テキスト内容を理解し、文献調査や、レジメの作成などが的確にできたか。(2) 中間レポートの主題にそってサブトピックを選び、文献調査をし、レジメを作成し論理的な発表ができたか。期末発表ではパワーポイントを使用し、研究の概要説明ができたか。 * 中間・期末レポートは授業で扱ったテーマと関連する興味ある題材を選びグローバルな社会問題について研究し、中間レポートは関連する資料を参照し 2,000 字以上に論理的にまとめることができたか。期末レポートは関連する文献資料を 2 冊以上読んで 4,000 字以上に小論文形式で論理的にまとめることができたか。						
準備学修の時間	本科目の一回（90 分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	グローバル・リテラシーとグローバル問題、サステナビリティとは	講義、発表 グループ決め	2015－2030 の Global Goals の資料を読む
2	共同研究のやり方、レジメの書き方、コメントシート（CS）の書き方、研究倫理	講義、討議 (PC ルームで作業)	Ut.1 教育とジェンダーを読み CS を書く。発表準備
3	Ut.1 教育とジェンダー： 開発教育、女性のエンパワーメント	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.1 の CS に感想を入れ提出 Ut.2 読み CS 準備。発表準備
4	Ut.2 地球温暖化： 原因と結果、問題解決のために	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.2 の CS に感想を入れ提出 Ut.3 読み CS 準備。発表準備
5	Ut.3 水の問題－飲料水の確保： 水争奪戦争、水資源	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.3 の CS に感想を入れ提出 Ut.4 読み CS 準備。発表準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	Ut.4 貧困と飢餓： 貧困問題は人が生み出すもの？	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.4 の CS に感想を入れ提出 Ut.5 読み CS 準備。発表準備
7	Ut.5 グローバリゼーションと疫病： 鳥インフルエンザ、エボラウイルス	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.5 の CS に感想を入れ提出 通常準備、中間課題提出
8	Ut.6 テロリズム： グローバリゼーションとテロリズム：	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.6 の CS に感想を入れ提出 Ut.8 読み CS 準備。発表準備
9	Ut.8 平和と紛争の問題（1） 核兵器	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.8 の CS に感想を入れ提出 Ut.9 読み CS 準備。発表準備
10	Ut.9 平和と紛争の問題（2） ーなぜ大量虐殺は起こったのかー	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.9 の CS に感想を入れ提出 Ut.11 読み CS 準備。発表準備
11	Ut.11 平和と紛争の問題（3） ー難民問題とはー	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.11 の CS に感想入れ提出 Ut.12 読み CS 準備。発表準備
12	Ut.12 平和と紛争の問題（4） ー平和のために、ネルソン・マンデラー①	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.12 の CS に感想入れ提出 Ut.14 読み CS 準備。発表準備
13	Ut.14 平和と紛争の問題（5） ー平和のために、NGO、国際赤十字ー①	発表、質疑応答、ディスカッション、講義	Ut.12 の CS に感想入れ提出 期末課題の発表準備
14	期末課題レポートのポスターセッション (1/3 発表×3、2/3 評価) 25 分×3 組	一人 3 回発表、Q&A 評価シートへ記入	評価シート提出、学修ポートフォリオ準備
15	2 年生のゼミ論文発表への参加、リフレクションタイム、学修ポートフォリオ作成	記録、質疑応答	期末課題、評価シート、学修ポートフォリオ提出

テキスト	達川奎三、ウォルター・ディビス（2014）『Global Issues Towards Peace - DVD で学ぶ共存社会ーグローバル時代を考える』（南雲堂）、他ハンドアウト
参考書	花井 等、若松 篤（著）『論文の書き方マニュアルーステップ式リサーチ戦略のすすめ 新版』（有斐閣アルマ）（2014） 東海大学教養学部国際学科編（2013）『第 4 版国際学のすすめーグローバル時代を生きる人のために』（東海大学出版会）
その他 特記事項	ゼミ生にはグローバル問題に関心を寄せ、問題意識を高めること、および、ゼミの討論への積極的な参加を望む。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	岩崎 明子
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4213	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	グローバル問題、温暖化、水問題、人権、健康、生物多様性、など						
授業の概要	英文教科書を中心に読み、担当は World Issues の各テーマについて詳細なリサーチ結果をまとめ発表後、クラスディスカッションを通して問題点の考察を深める。参加者全員は取り扱う内容を毎回テーマレポート (TR) にまとめて準備し授業に臨む。中間期までにゼミ論文のテーマ決めと、学期末までに参考資料 10 冊の一覧表を論文解題 (Annotated Bibliography) の形式で提出する。						
達成目標	様々な World Issues について問題を理解し考察を深め、発表やディスカッション、まとめをより効果的に行えるように体験的に学ぶ。英文記事の読解によって英語力を伸ばす。リサーチ方法を学び、ゼミ論文の準備を行う。						
到達目標	授業の準備と参加によって、より論理的な発表や意見の発言やまとめが出来るようになる。英語文での資料読解に慣れ、英語サイトのリサーチにも応用する。 リサーチ方法、論文の書き方を学び、論文解題の作成を通し、ゼミ論文の準備をする。						
評価方法	① テーマに沿ったプレゼン 2 回 (ペア) とレジメ 20% ② テーマレポート (TR) とリアクションペーパー (リアペ) 10 回 30% ③ 中間レポート (2,000 字以上) 10% ④ 期末レポート (4,000 字以上)・レジメ作成、プレゼン (1 人) 30% ⑤ ゼミ論文のための論文解題レポート 10%						
評価基準	① テーマに沿ったプレゼン 2 回 (ペア) とレジメ 20% リサーチをして十分な資料をもとにプレゼンテーションを組み立て、発表のレジメも効果的に作られている。Q & A のための準備をして、ゼミ生のディスカッションを効果的に行うことができた。 ② テーマレポート (TR) とリアクションペーパー (リアペ) 10 回 30% 毎回の TR を書くことで、話し合いのための準備ができています。リアクションペーパーでは単なる感想に終わらず、授業中の発表や話し合いで得た新しい知識を反映させる形でまとめられた。 ③ 中間レポート (2,000 字以上) 10% 教科書で取り扱った Global 問題について取り上げ、4 つ以上の他の資料を基に主題のある論文にまとめられたか。 ④ 期末レポート (4,000 字以上)・レジメ作成、プレゼン (1 人) 30% レポートの主題は、Global 問題について 2 つの国の取り組みについてリサーチをし、問題の状況や対処のやり方を比較対象して論文にする。 プレゼンテーションでは、主題が明確で、理路整然とスピーチが制限時間以内にできたか。レジメはスピーチを理解させるために効果的に書かれ、使われていたか。 ⑤ 卒業論文のための論文解題レポート 10% 書籍 2 冊以上と各種研究論文、合わせて 10 項目の論文解題レポートを作る。その内容の要約と自分の論文テーマとの関連について、きちんとした評価が各論文解題にたいしておこなえているか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス、リサーチとゼミ論文解題 研究倫理について、担当分け	講義、意見交換	Ut.1 地球温暖化の問題 Goodby, Maldives 読み準備
2	Ut.1 地球温暖化の問題 Goodby, Maldives, TR (1)	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut1. TR 提出、Ut.2 読み準備 (TR)
3	Ut.2 新たな共同体づくりへのチャレンジ Sustainable Communities	発表、意見交換、講義 リアペ	ゼミ論文テーマ提出、Ut.2 TR 提出、Ut.3 読み準備 (TR)
4	Ut.3 経済格差：Economic Inequality: the Glowing Gap	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.3 TR 提出、Ut.4 読み準備 (TR)
5	Ut.4 エコツーリズムの挑戦 Dilemmas for a Responsible Tourism	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.4 TR 提出、Ut.5 読み準備 (TR)
6	Ut.5 生物多様性から学ぶもの Learning from Nature	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.5 TR 提出、Ut.6 読み準備 (TR)
7	Ut.6 水問題：We Can't Live Without Water	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.6 TR 提出、Ut.7 読み準備 (TR はナシ)
8	Ut.7 世界遺産の保護：Protecting World Heritage	発表、意見交換、講義 リアペ	中間課題提出、Ut.8 読み準備 (TR)
9	Ut.8 健康と食べ物：The War on Sugar	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.8 TR 提出、Ut.9 読み準備 (TR ナシ)
10	Ut.9 エネルギー問題：Energy for a Stable Climate	発表、意見交換、講義 リアペ	期末アウトライン提出、Ut.10 読み準備 TR
11	Ut.10 熱帯雨林保護と人権：Yasuni: A Dream of the Future	発表、意見交換、講義 リアペ	Ut.10 TR 提出、Ut.11 読み準備 (TR ナシ)
12	Ut.11 大農園の生産物：No More Bananas?	発表、意見交換、講義 リアペ	期末発表レジメ初稿提出、 Ut.12 準備 (TR)
13	Ut.12 大量生産、大量消費の時代から：Closing the Loop / 期末発表 (1)	講義、発表、Q&A、評 価	Ut.12 TR 提出、Ut.14 読み準備 (TR)
14	Ut.14 非暴力抗議と市民的不服従：When It is Right to Break the Law / 期末発表 (2)	講義、発表、Q&A、評 価	Ut.14 TR 提出、論文解題準備
15	期末発表 (3)、リフレクション・タイム (学 修ポートフォリオ作成)、まとめ	講義、発表、Q&A、評 価	期末レポート、論文解題レポ ート提出

テキスト	David Peaty, Jun Kawata (2018). <i>Issues That Matter</i> (Kinseido). 野田直人 (2015) 『小論文・レポートの書き方—パラグラフ・ライティングとアウトラインを 鍛える演習帳』(有限会社人の森)
参考書	日能研 (2017) 『国連 世界の未来を変えるための 17 の目標 SDGs—2030 年までのゴール』 (みくに出版)

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	岩崎 明子
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4213	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-⑤
キーワード	ゼミ論文の作成法、研究課題の設定、中間発表、公開発表						
授業の概要	今までに学んだ知識を生かし、自分の関心テーマに従って、ゼミナール論文を作成する。毎回の発表では、発表者が自分の研究成果を発表し、参加者全員で課題を討論する。中間発表およびゼミ終了日にはゼミ論文についての発表をする。						
達成目標	グローバルな世界の問題の中から、選択した自分のテーマをあらゆる角度から研究し、まとめ、発表し、ゼミ論文作成をすることが目的である。教材には SDGs に関するテーマを扱う。						
到達目標	①先行研究の検討、研究課題の設定、調査、討論をとおして、論文作成に必要な知識と技術をつける。 ②SDGs の実例を取り上げ、内容を論理的、批判的にまとめ考察し発表する。						
評価方法	1) 教科書の輪読、各章担当者 2 名で発表、レジメ配布 20%。 ディスカッション後、毎回リアクションペーパー提出 30%。 2) ゼミ論文に関わる提出 50%。 ①論文の計画書の提出、(要旨、アウトライン、参考資料を含める) ②論文の要旨についての中間発表 (PPT で 15 分、配布用レジメを用意、Q&A) *9 月の夏合宿及び 1〜2 回目の授業で行う ③初稿の提出 (10,000 字〜12,000 字、or 12,000 字以上) 12 月 20 日 ④ゼミ論文発表 (PPT で 15 分、配布用レジメを用意、Q&A) ⑤ゼミ論文清書の提出 1 月末						
評価基準	1) 教科書の輪読、各章担当者 2 名で発表、レジメ配布 20%。 ディスカッション後、毎回リアクションペーパー提出 30%。 リサーチをして十分な資料をもとにプレゼンテーションを組み立て、発表のレジメも効果的に作られている。Q&A のための準備をして、ゼミ生のディスカッションを効果的に行うことができた。 2) 卒業ゼミ論文に関わる提出 50% ①論文の計画書の提出、(要旨、アウトライン、参考資料を含める) ②論文の要旨についての中間発表 (PPT で 15 分、配布用レジメを用意、Q&A) *9 月の夏合宿及び 1〜2 回目の授業で行う ③初稿の提出 (10,000 字〜12,000 字、or 12,000 字以上) 12 月 20 日 ④ゼミ論文発表 (PPT で 15 分、配布用レジメを用意、Q&A) ⑤ゼミ論文清書の提出 1 月末 *提出期限を守れたか。 *論文提出の決められた書式をすべて守れたか。 *論文の内容：10,000〜12,000 字の字数の中で自分のテーマに従って、段階的に十分なリサーチに基づいた論理的な文章を各種資料の引用をきちんと行いながらまとめられたか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (90 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 180 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス、研究倫理、持続可能な開発目標（SDGs）の全体像	講義、意見交換	教科書 2 章準備
2	2 章、経済開発と SDGs—民間主導のアフリカ経済	発表、意見交換、講義	教科書 3 章準備、ゼミ論文テーマと要旨と文献表提出
3	3 章、ソーシャルビジネスと SDGs—インフラ普及における有効性	発表、意見交換、講義	教科書 4 章準備
4	4 章、都市化と SDGs—都市化の肯定的利用手段としての建築物	発表、意見交換、講義	教科書 5 章準備 ゼミ論文アウトライン提出
5	5 章、環境分野での SDGs の達成に向けた国際貢献	発表、意見交換、講義	教科書 6 章準備
6	6 章、防災と SDGs—SDGs の礎として	発表、意見交換、講義	教科書 7 章準備
7	7 章、ジェンダーと SDGs—女性のエンパワーメントと障壁	発表、意見交換、講義	教科書 8 章準備 ゼミ論文 1, 2 章提出
8	8 章、社会的保護・社会保障と SDGs 拡大する社会的保護 / ゼミ論文要旨説明①	発表、意見交換、講義	教科書 9 章準備 要旨説明準備
9	9 章、すべての人に対する支援と SDGs 不可欠な障害者支援 / ゼミ論文要旨説明②	発表、意見交換、講義	教科書 10 章準備 要旨説明準備
10	10 章、観光開発と SDGs—Sustainable Tourism / ゼミ論文要旨説明③	発表、意見交換、講義	教科書 11 章準備 要旨説明準備
11	11 章、アフリカの開発と SDGs SDGs とアフリカ開発銀行の役割	発表、意見交換、講義	教科書 12 章準備 ゼミ論文初稿提出（12 月）
12	12 章、アフリカにおける農業と技術	発表、意見交換、講義	教科書 13 章準備 ゼミ論文初稿返却
13	13 章、マサイコミュニティと SDGs、まとめ	発表、意見交換、講義	PPT の用意
14	ゼミ論文研究発表	発表、Q&A、評価	PPT の用意
15	ゼミ論文研究発表とリフレクションタイム（学修ポートフォリオ作成）	発表、Q&A、評価、自己評価	ゼミ論文清書提出（1 月）

テキスト	東洋大学国際共生社会研究センター編（2017）『持続可能な開発目標と国際貢献—フィールドから見た SDGs—』
参考書	花井 等、若松 篤（著）（2014）『論文の書き方マニュアル—ステップ式リサーチ戦略のすすめ新版』（有斐閣アルマ）
その他 特記事項	9 月中旬に夏期合宿を行う。合宿では、UNESCO 資料を使って様々な角度で Children's Right についてのリサーチ内容と、各自のゼミ論文についての構想を PPT で発表する。事情で参加できないゼミ生は、発表を 9 月初めの授業で行う。

科目名	SES200: ゼミナール I					担当教員	M. Lupas
開講期	春	開講時限	水 4 限	研究室	4206	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び 学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-⑤
キーワード	Comparative literature, research, Christian Humanism, literature, art						
授業の 概要	Overview: In this course, students will explore the writings of several influential women from different times and places: Sei Shonagon, Murasaki Shikibu, Madame de Lafayette, Madame de Sévigné, Virginia Woolf, Helen Keller, Anne Frank, Therese of Lisieux, and Mother Teresa. They will do close readings of primary texts and begin reading secondary literature. They will begin presenting their independent research on one of the writers.						
達成目標	Goals: For students to improve their reading, speaking, presenting, and writing skills For students to improve their critical thinking and research ability and become autonomous learners For students to acquire a general humanistic culture through encounter with several classic texts						
到達目標	Learning Outcomes: By the end of this course students will be able to read several primary texts of world literature in the original language or translation and some important secondary texts. They will be able to express their understanding of the primary and secondary texts in a presentation. They will be able to write short reactions to the primary texts and a report about an author and text.						
評価方法	Participation in class activities (30%), group presentation (30%), reaction papers (30%), report (10%)						
評価基準	Participation will be evaluated on effort to listen actively to the instructor or presenters and take part in discussions. The group presentation will be evaluated on its organization (see <i>English Essentials</i>) and on its use of examples from the primary texts and properly citing the secondary texts. The reaction papers will be evaluated on their use of examples to support the ideas expressed. The report will be evaluated on organization and proper use of examples and citations.						
準備学修 の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Introduction and research ethics education	Lecture, group work	Think of a writer from the course that you want to present
2	Sei Shonagon	group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)
3	Murasaki Shikibu	Lecture, group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)
4	Madame de LaFayette	Lecture, group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)
5	Madame de Sévigné	Lecture, group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)
6	Virginia Woolf	Lecture, group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)
7	Helen Keller	Lecture, group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)
8	Anne Frank	Lecture, group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	Therese of Lisieux	Lecture, group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)
10	Mother Teresa	Lecture, group presentation, discussion	Prepare reading (before class), reaction paper (after class)
11	Catching up and Review	Presentations, lecture, group work	Review all readings and notes
12	Graduation thesis introduction and goals	Lecture	Prepare short report on a writer from the course
13	Graduation thesis summer planning	Writing	Prepare the thesis planning
14	Graduation thesis summer preparation	Group sharing	Continue thesis preparation
15	Reflection Time (portfolio)	Group discussion	Reflection time survey

テキスト	Original handouts containing the primary texts and excerpts from secondary texts on each of the authors covered in class will be distributed by the instructor.
参考書	<i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>

科目名	SES300: ゼミナール II					担当教員	M. Lupas
開講期	秋	開講時限	水 5 限	研究室	4206	オフィスアワー	P.16 を参照のこと
分類	必修	単位	2	標準受講年次	2 年	連絡先	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-⑤
キーワード	Comparative literature, research, Christian Humanism, literature, art						
授業の概要	Overview: In this course, students will explore the writings of several influential women from different times and places: Sei Shonagon, Murasaki Shikibu, Madame de Lafayette, Madame de Sévigné, Virginia Woolf, Helen Keller, Anne Frank, Therese of Lisieux, and Mother Teresa. They will do close readings of primary texts and begin reading secondary literature. They will go through the process of writing an academic thesis.						
達成目標	Goals: For students to improve their reading, speaking, presenting, and writing skills For students to improve their critical thinking and research ability and become autonomous learners For students to be able to express their view on a topic and support their view with facts and examples For students to acquire a general humanistic culture through encounter with several classic texts						
到達目標	Learning Objectives. By the end of this course, students will be able to: • write a graduation thesis that includes the following steps: ①picking a research topic, ②finding keywords, ③selecting the primary text, ④finding secondary sources, ⑤reading and taking notes, ⑥writing the thesis statement, ⑦and drafting an organized thesis with a works cited page • keep track of where they are in the thesis process and give regular updates • take notes on short readings, articles and books • present their research findings in a presentation						
評価方法	Participation in class activities (25%), Reading notes (25%), Graduation thesis (35%), Presentation of graduation thesis (15%)						
評価基準	Participation will be evaluated on effort to listen actively to the instructor or speaker and take part in discussions. The one-page reading notes will be evaluated on their completeness and timely submission. The graduation thesis will be evaluated on its organization which includes having a clear thesis statement and having topic sentences for each paragraph and on its content which includes giving examples, citing primary texts and citing relevant and secondary sources. The presentation will be evaluated according to the categories given in <i>English Essentials</i> on presentations.						
準備学修の時間	For each 90-minute class session of this course, an average of 180 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Introduction, research ethics basics	Lecture, group sharing	Prepare update on your summer graduation thesis preparation
2	Sei Shonagon. Thesis: Topic and keywords	Group sharing on graduation thesis work, lecture on Sei Shonagon	Prepare an update on your graduation thesis work. Prepare 1 page of reading notes.
3	Murasaki Shikibu Thesis: selecting a text to study	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update and reading notes
4	Madame de LaFayette Thesis: Evaluating books and articles, making a works cited page	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update and reading notes
5	Madame de Sévigné Thesis: Taking reading notes	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update and reading notes

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
6	Virginia Woolf Thesis: Writing a tentative thesis statement	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update and reading notes
7	Helen Keller Thesis: Writing an outline	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update and reading notes
8	Anne Frank Thesis: Literature review	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update and reading notes
9	Therese of Lisieux Thesis: Presenting your findings	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update and reading notes
10	Mother Teresa Thesis: Finishing touches	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update and reading notes
11	Catching up and review	Group sharing, lecture, discussion	Prepare thesis update
12	Graduation thesis presentations	Presentations	Prepare graduation thesis presentation
13	Graduation thesis presentations	Presentations	Prepare graduation thesis presentation
14	Graduation thesis presentations	Presentations	Prepare graduation thesis presentation
15	Reflection time (portfolio)	Group sharing, writing	Prepare some thoughts on this course

テキスト	There is no text for this class since students will be doing individual research. Students should bring their handouts from Pre-seminar and Seminar I on a given author for the day that author is assigned in Seminar II.
参考書	<i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>